

⑳環境学委員会



環境学委員会・地球惑星科学委員会合同 FE・WCRP 合同分科会					
委員長	中村 尚	副委員長	三枝 信子	幹事	張 勁
主な活動	審議内容				
	社会のステークホルダーを強く意識しつつ地球環境や気候変動に関する超学際研究を国際的に推進する Future Earth (FE)、並びにそのパートナー的位置づけとなった世界気候研究計画 (WCRP) に関わる国際的・国内的活動、及びこれらの活動に関する普及や関連する社会貢献を推進するための諸事項の審議をおこなう。				
	意思の表出 (※見込み含む)				
	開催シンポジウム等				
	公開シンポジウム「Future Earth 時代における地球表層システム科学と防災・減災研究」を、フューチャー・アースの推進と連携に関する委員会と合同で、令和元年 8 月 7 日に学術会議講堂にて開催。シンポジウムの内容を踏まえた会長談話「地球温暖化」への取り組みに関する緊急メッセージ」が 9 月 19 日に発出された。				
開催状況	24 期第 3 回：平成 30 年 12 月 27 日				
今後の課題等	WCRP の次期 10 年の戦略と組織改編を踏まえての FE との連携などの対応が必要。また、FE のみならず、国連の「持続可能な発展目標(SDGs)」との連携も必要。				

環境学委員会 環境科学分科会					
委員長	大政 謙次	副委員長	阿尻 雅文	幹事	青野 光子 北川 尚美

主な活動	審議内容
	環境科学分野の研究者の連携推進、及び当該分野の深化・発展を目的とし、そのために必要な調査ならびに情報発信について審議を行った。今期は、6つのワーキンググループを設置し、シンポジウムや意志の表出についての実務作業を行っている。
	意思の表出（※見込み含む）
	開催シンポジウム等
	平成30年11月27日（火）に公開シンポジウム「公開シンポジウム「次世代エネルギー社会の超低炭素化に向けた課題とチャレンジ ―温室効果ガス80%削減のフィージビリティとリアリティについて考える（2）―」、令和元年5月16日（木）に公開シンポジウム「環境変動にともなう生態系の応答を測る」（農学委員会農業生産環境工学分科会との共同主催）を日本学術会議講堂にて開催。
開催状況	平成30年11月27日（火）（24期第3回）、平成31年2月1日（金）～5日（火）（第4回、メール審議）、令和元年7月4日（木）～8日（月）（第5回、メール審議）
今後の課題等	24期中に複数のシンポジウムの開催と意志の表出、及び書籍の上梓を検討している。

健康・生活科学委員会・環境学委員会合同 環境リスク分科会					
委員長	那須民江	副委員長	中村桂子	幹事	野原恵子・近藤昭彦
主な活動	審議内容				
	1. 2回のシンポジウムを開催する。 2. 2回のシンポジウムをまとめ、さらに関連する項目を追加して、学術の動向10月号に特集1として掲載する。 3. 提言を作成する。				
	意思の表出（※見込み含む）				
	1. マイクロプラスチックによる水環境汚染とヒトおよび生態系への影響（提言予定） 2. 公害病認定から持続可能な開発目標の達成に向けて（提言予定）				
	開催シンポジウム等				
1. 公害病認定から半世紀経過した今、わたくしたちが考えること―持続可能な開発目標の達成に向けて 第89回日本衛生学会との共催（平成31年2月3日）					

	2. 有害物質の環境循環と健康－持続可能な開発目標 12「つくる責任、つかう責任」をめぐって 第 92 回日本産業衛生学会との共催（令和元年 5 月 25 日）
開催状況	第 3 回分科会 平成 30 年 9 月 20 日～9 月 25 日※メール、第 4 回分科会 平成 30 年 12 月 25 日、第 5 回分科会 平成 31 年 2 月 3 日、第 6 回分科会 令和元年 5 月 25 日
今後の課題等	2 つの提言作成と SDGs 達成のための課題

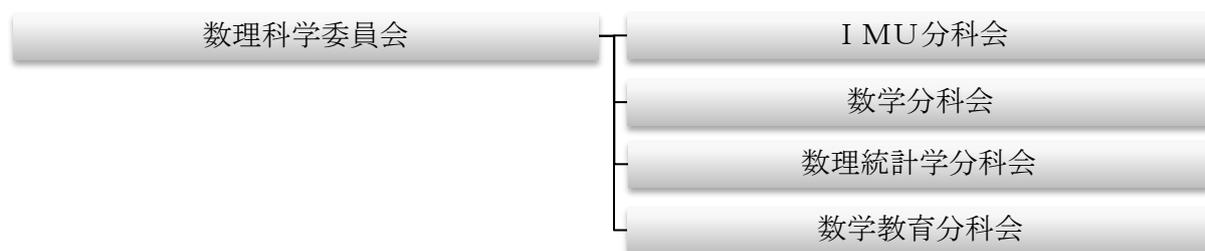
環境学委員会 環境思想・環境教育分科会					
委員長	関礼子	副委員長	氷見山幸夫	幹事	山田育穂・豊田光世
主な活動	審議内容				
	1. 「環境教育の統合的推進に向けて」（23 期）を具体化するための記録「統合的環境教育推進の基盤となる理念・価値の共有化に向けて」の作成（査読中）。				
	2. 持続可能な開発目標（SDGs）の動向を踏まえ、関連諸領域（森林科学、土壌学等）からの環境教育の実践について議論した。				
	3. 環境思想に関する理論的・実践的な議論のために小委員会を設置し、現在の課題に環境思想からのアプローチを活かす手法について議論した。				
	意思の表出（※見込み含む）				
	開催シンポジウム等				
開催状況	平成 30 年 9 月 20 日（第 24 期第 3 回） 令和元年 5 月 30 日（第 24 期第 4 回）				
今後の課題等	予算上の制約が十分な議論を妨げるため、外部からの予算確保を考えたい。				

環境学委員会 環境政策・環境計画分科会					
委員長	横張真	副委員長	西條辰義	幹事	福永真弓 村上暁信
主な活動	審議内容				
	本分科会では多様な分野の参画のもと、環境政策・環境計画における「新たなパートナーシップ」の諸相をとらえ、それらに共通する思想や概念、制度のあり方を考察し、その上で新たなパートナーシップにかかわる様々な技術論について、その体系化や今後の展開方向を議論している。主にメールでの				

	意見交換により、社会学や倫理学等の関連分野における議論の整理を試み、今後の議論の枠組みについて検討を行った。
	意思の表出（※見込み含む）
	分科会での議論を取りまとめて、「学術の動向」の特集記事を編集する。
	開催シンポジウム等
開催状況	開催せず
今後の課題等	環境学委員会（都市と自然と環境分科会）との連携を検討する。

統合生物学委員会・環境学委員会合同 自然環境保全再生分科会					
委員長	鷺谷 いづみ	副委員長	吉田 丈人	幹事	森本 淳子
主な活動	審議内容				
	自然再生推進法に関わる自然再生基本方針の改定案について、環境省自然環境計画課担当者を参考人として招致して説明を受け、意見交換を行った（同法を共同管理する国土交通省、農林水産省からも参考人を招致）。分科会の意見も取り入れられた改定案は令和元年 8 月にパブリックコメントにかけられ、12 月に閣議決定の予定である。				
	意思の表出（※見込み含む）				
	なし				
	開催シンポジウム等				
	なし				
開催状況	平成 30 年 11 月 2 日				
今後の課題等					

㉑数理科学委員会



数理科学委員会					
委員長	坪井 俊	副委員長	小澤 徹	幹事	小谷 元子
主な活動	審議内容				
	<ul style="list-style-type: none"> ・数理科学委員会は広い意味での数学に関して (1) 科学政策に対する提言、(2) 社会への貢献、(3) 国際社会との連携を目的として活動を行っている。 ・数学分科会、数理統計学分科会、数学教育分科会、IMU分科会の活動の報告を受け、情報の交換を行った。主な点は数学分科会（これまでの提言の実現の方策、マスタープラン2020）、数理統計学分科会・数学教育分科会（新指導要領、新センター試験）、IMU分科会（ICM2018、柏原正樹氏チャームダル受賞）。 ・京都大学数理解析研究所運営委員、専門委員を選出し、推薦した。 ・学術会議内の委員会の委員を推薦した。 				
	意思の表出（※見込み含む）				
	<ul style="list-style-type: none"> ・数理科学委員会の分科会からの意思の表出を支援する。 				
開催状況	平成30年10月3日、令和元年10月総会時開催予定。				
	<ul style="list-style-type: none"> ・今後も、広い意味での数学に関して (1) 科学政策に対する提言、(2) 社会への貢献、(3) 国際社会との連携を目的として活動を続けていく。 ・3月28日に開催された理学・工学系学協会連絡協議会において伺った関係学協会の意見を活動に反映させる。 				

数理科学委員会 IMU分科会					
委員長	小澤 徹	副委員長	なし	幹事	寺尾 宏明
主な活動	審議内容				

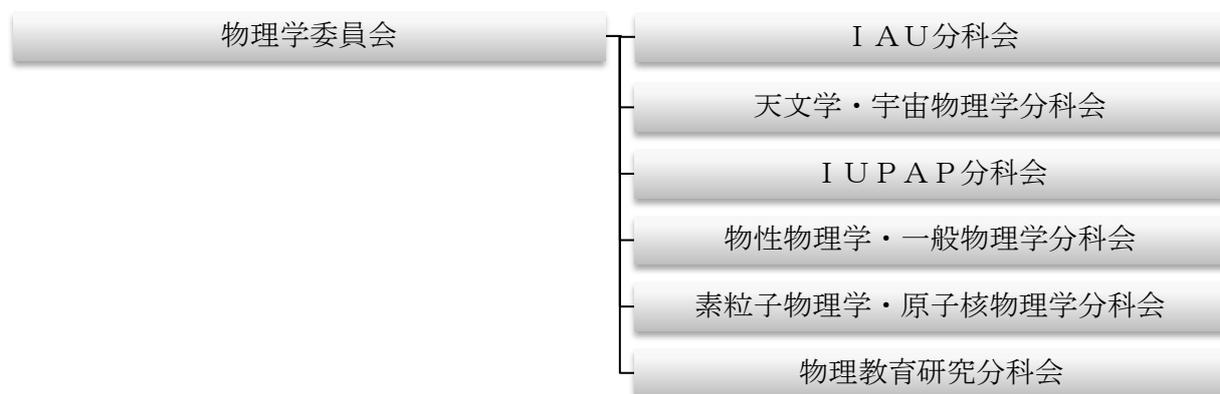
	平成 30 年 7 月 29 日から 30 日までブラジル・サンパウロにて開催された第 18 回国際数学連合総会 (IMU GA) 2018 に代表団を派遣した。予算・決算の議決や次期総裁・事務総長・副総裁を含む理事の選出に参加し、分科会としての意思を表出した。また 8 月 1 日から 9 日までブラジル・リオデジャネイロにて開催された国際数学会議 (ICM) 2018 に IMU 派遣団として参加した。その後、派遣事業のまとめ、報告等を行い、IMU の新しい理事会からの要請に基づいた活動等を行った。
	意思の表出 (※見込み含む)
	分科会の設置目的に鑑み、特に予定はなし
	開催シンポジウム等
	平成 30 年 8 月 8 日 ICM 2018 Japan Forum
開催状況	平成 31 年 2 月 1 日 ※メール
今後の課題等	新体制となった IMU および日本数学会の理事会との連携を一層強化する。

数理科学委員会 数学分科会					
委員長	坪井 俊	副委員長	小澤 徹	幹事	伊藤由佳理、 杉山由恵
主な活動	審議内容				
	<ul style="list-style-type: none"> 第 23 期策定マスタープラン 2017 の重点大型研究計画の中の計画番号 50 「数理科学の深化と諸科学・産業との連携基盤構築」および第 23 期数学分科会提言「数理科学と他の科学分野や産業との連携の基盤整備に向けた提言」の内容実現に向けた具体的な方策について、関係する教育研究機関の代表者を交えて具体的に議論した。これがマスタープラン 2020 への数理科学コミュニティからの提案にも反映されることを要請した。 				
	意思の表出 (※見込み含む)				
	具体化に向け審議中				
	開催シンポジウム等				
	具体化に向け審議中				
開催状況	平成 30 年 11 月 2 日、平成 30 年 11 月 26 日、令和元年 10 月以降に開催予定。				
今後の課題等	<ul style="list-style-type: none"> 第 23 期策定の提言の実現のため、関係教育研究組織との連携を強化して、具体策を策定していく。 マスタープラン 2020 への数理科学コミュニティからの提案と分科会活動との調整を行う。 				

数理科学委員会 数理統計学分科会					
委員長	竹村彰通	副委員長	上田修功	幹事	栗木哲・西郷浩
主な活動	審議内容				
	高等学校学習指導要領の改訂を受けて、高等学校の数学における統計教育の需要が高まると予想される。具体的には数学Bには正規分布に基づく推定・検定として統計関係の内容が残り、ベクトルが数学Cに移行された。また数学Iには仮説検定の基本的な考え方も含まれた。このような改訂について大学における統計教育との関連で分科会として検討を進める。				
	意思の表出（※見込み含む）				
	今期は特に考えていない。				
	開催シンポジウム等				
今期は特に考えていない。					
開催状況	第24期第2回の分科会を平成31年2月18日（月）に開催した。				
今後の課題等	指導要領改訂が個別入学試験に与える影響についても情報を収集する。				

数理科学委員会 数学教育分科会					
委員長	真島秀行	副委員長	藤井斉亮	幹事	小山正孝 渡辺美智子
主な活動	審議内容				
	第23期が公表した提言のフォローアップを行い、年次進行で新学習指導要領による数学教育の円滑かつ実効的な実施、高等教育（大学・大学院・社会人）の数学教育の大きな変革のために、意見表明を行う方向性を検討し、それに盛り込む事項の大枠を決め、案文形成についてメール会議およびフォーラムを利用して行っていくこととした。				
	意思の表出（※見込み含む）				
	提言公表予定				
	開催シンポジウム等				
予定無					
開催状況	第3回メール会議（平成31年1月11日～16日）。この前後にフォーラムを利用しての意見交換し現在も継続中。				
今後の課題等	社会人への数学教育の方向性等				

⑫物理学委員会



物理学委員会					
委員長	梶田隆章	副委員長	松尾由賀利	幹事	野尻美保子, 山崎典子
主な活動	審議内容				
	関連する分科会から提案された提言、シンポジウムの開催等について審議を行い、加えてマスタープラン 2020 への対応について意見交換を行なっている。				
	意思の表出（※見込み含む）				
	なし				
	開催シンポジウム等 平成 30 年 12 月 17 日、学術会議講堂にて「基礎科学研究の意義と社会 物理学分野から」を行なった。 http://www.scj.go.jp/ja/event/pdf2/268-s-3-2.pdf 参加者 180 名、また本シンポジウムの内容をまとめた書籍の出版を計画している。				
開催状況	平成 30 年 10 月以降、委員会を 6 回（このうち、平成 30 年 10 月 19 日と平成 31 年 4 月 5 日は委員会開催、残り 4 回はメール審議（平成 30 年 11 月 13－16 日、平成 30 年 12 月 4－6 日、平成 30 年 12 月 11－14 日、令和元年 5 月 7－10 日））行なった。				
今後の課題等	基礎科学と社会との関わりについて、物理学分野からの提言を行なうことを念頭に、検討を行なっている。				

物理学委員会 IAU 分科会					
委員長	渡部潤一	副委員長	生田ちさと	幹事	山田亨、深川美里
主な活動	審議内容				

	IAU 総会の報告と共に IAU Junior member への新規登録会員の審査を行い、応募者 2 名の推薦を決定した。IAU 100 周年の記念シンポジウムの開催を決定した。また、IAU Honorary Member について推薦の検討を開始することとした。
	意思の表出 (※見込み含む)
	・提言「ハッブルの法則の改名を推奨する IAU 決議への対応」、平成 30 年 12 月 26 日 (天文学・宇宙物理学分科会と共同)
	開催シンポジウム等
	・ IAU 100 年記念事業 日本学術会議シンポジウム「天文学の 100 年 過去から未来へ」、令和元年 5 月 27 日・28 日、国立科学博物館 (天文学・宇宙物理学分科会および日本天文学会、自然科学研究機構 国立天文台、宇宙航空研究開発機構 宇宙科学研究所と共催 IAU 分科会と共催) http://www.astronomy2009.jp/fswiki/wiki.cgi/astroconf/IAU100symp
開催状況	平成 31 年 1 月 23 日、令和元年 7 月 29 日
今後の課題等	

物理学委員会 天文学・宇宙物理学分科会					
委員長	林正彦	副委員長	山崎典子	幹事	深川美里、山田亨
主な活動	審議内容				
	・ マスタープラン 2020 に向けた天文学・宇宙物理学分野の将来計画の審議 ・ 若手研究者のキャリアパス問題の審議				
	意思の表出 (※見込み含む)				
	・ 提言「ハッブルの法則の改名を推奨する IAU 決議への対応」、平成 30 年 12 月 26 日 (IAU 分科会と共同)				
	開催シンポジウム等				
	・ IAU 100 年記念事業 日本学術会議シンポジウム「天文学の 100 年 過去から未来へ」、令和元年 5 月 27 日・28 日、国立科学博物館 (IAU 分科会と共催)				
開催状況	平成 31 年 1 月 23 日、令和元年 7 月 29 日				
今後の課題等	・ 若手研究者のキャリアパスに関して、日本天文学会と協力して調査を実施 ・ 大学共同利用と大型計画に関する問題の検討、シンポジウム等の実施				

物理学委員会・総合工学委員会合同 IUPAP 分科会					
委員長	野尻美保子	副委員長	藤澤彰英	幹事	
主な活動	審議内容				
	IUPAP では委員会委員長の国バランス、女性委員等を確保するために、新しい委員の選考方法が議論されており、これについて報告と、意見交換を行った。				
	意思の表出（※見込み含む）				
	なし				
	開催シンポジウム等				
	12/2 に公開シンポジウム「新しい国際単位系（SI）重さ、電気、温度、そして時間の計測と私たちの暮らし」を産総研との共催で開催し、ほぼ会場がいっぱいになる 270 名程度の参加者があり、大変好評であった。				
開催状況	平成 30 年 12 月 2 日 第三回の委員会を開催				
今後の課題等	2022 年（令和 4 年）に IUPAP が 100 年を迎える。また IUPAP では この年を INTERNATIONAL YEAR OF BASIC SCIENCE FOR DEVELOPMENT としてユネスコに申請を行うことが計画されている。日本は第一回 GA からの参加国であり、記念行事の開催が望ましい。				

物理学委員会 物性物理学・一般物理学分科会					
委員長	川村光	副委員長	五神真	幹事	森初果、伊藤公平
主な活動	審議内容				
	マスタープラン 2020 公募を契機として、物性物理学・一般物理学分野の大型研究計画の今後の展望をテーマに、本分科会が主催する学術会議シンポジウムを開催し広く議論を行った。近年、学術会議全体としても、社会や産業との関わりの中での基礎学術の重要性を訴えていく方向性が顕在化しつつある。本分科会でも、前年度より社会や産業との関わりの中での物性物理学・一般物理学の今後の在り方をテーマとした提言を目指した活動を行っていたが、本年度は学術会議全体の方向性も見据えた更なる検討を行っている。				
	意思の表出（※見込み含む）				
	近年の情勢の展開を踏まえて、提言発出を検討している。				
	開催シンポジウム等				
	「物性物理学・一般物理学分野の展開と大型研究計画」シンポジウムを平成 31 年 2 月 22 日に学術会議講堂にて開催した。				

開催状況	平成30年10月第2回分科会（メール）、平成31年2月22日第3回分科会。
今後の課題等	物性物理学・一般物理学分野の大型研究計画の今後に関する議論の深化

物理学委員会 素粒子物理学・原子核物理学分科会					
委員長	田村裕和	副委員長	浅井祥仁	幹事	野尻美保子 延與佳子
主な活動	審議内容				
	<ul style="list-style-type: none"> ・マスタープラン2020に向けて、素粒子物理学・原子核物理学分野の将来計画について議論した。 ・基礎科学の意義と社会について議論する公開シンポジウムを提案し、物理学委員会主催として実施した。さらに基礎科学研究における国際協力、人材育成、研究資金等をテーマとしたシンポジウムを提案すべく準備することとした。 				
	意思の表出（※見込み含む）				
	なし				
	開催シンポジウム等				
	公開シンポジウム「素粒子 物理・原子核物理分野の大型施設計画・大規模研究計画マスタープラン」を平成31年2月19日に開催。				
開催状況	平成30年10月15日、平成31年2月19日、平成31年4月5日				
今後の課題等	基礎科学研究を振興するための方策について議論を続ける。				

物理学委員会 物理教育研究分科会					
委員長	笹尾真実子	副委員長		幹事	笠 潤平
主な活動	審議内容				
	国内外の物理教育研究の進展と大学基礎教育レベルを中心としたわが国の物理教育の現状の検討を行い、物理教育の改革の方向性に関する審議を行う。				
	第24期2年目は、大学基礎教育レベルの物理教育の現状に関する情報収集と双方向的授業等の革新的授業の情報収集を行い、物理教育の現状の分析と改革に向けた課題の整理を行った。現在その成果を表す下記の学術フォーラム開催の準備を進めている。				
	意思の表出（※見込み含む）				
	大学基礎教育レベルを中心としたわが国の物理教育に関する提言発出に向けて、基本骨子の構築を行なっている。				
開催シンポジウム等					

	令和元年9月27日に学術会議講堂において 「いま問われる物理教育改革ーより効果的な理工学教育をめざして」 と題する学術フォーラムを開催する。
開催状況	平成30年11月26日 第2回分科会を開催 平成31年4月19日 第3回分科会を開催
今後の課題等	上記フォーラムでの議論をふまえ、提言発出に向けて準備を行う。

⑬地球惑星科学委員会



地球惑星科学委員会					
委員長	藤井良一	副委員長	田近英一	幹事	木村学, 春山成子
主な活動	審議内容				
	<p>日本地球惑星科学連合(JpGU)・学協会、教育研究機関等との連携を強化し、傘下 10 分科会・28 小委員会と連携し地球惑星科学分野の発展支援。具体的には、</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ JpGU と連携して地球惑星科学分野の発展に必要な将来計画をまとめた地球惑星科学分野の夢ロードマップの改定を行なった。今後公表予定。 ・ 地球惑星科学分野の将来計画の骨格をなす大型研究計画の策定支援。(委員会での 2 回、JpGU ユニオンセッションでの 1 回のヒアリング審査)。 ・ 傘下の分科会から提案される、提言(案)及び公開シンポジウム等の審議。 ・ 地球惑星科学関連学協会長(49 学協会)会議で懇談し情報交換。 ・ 全国地球惑星科学系専攻長・学科長懇談会でアンケート結果を基に情報交換。 ・ 地球惑星科学コミュニティとの関係強化のため、JpGU の定期刊行物 Japan Geoscience Letters に学術会議の活動に関する記事を定期的(3 回)に投稿。 				
	意思の表出(※見込み含む)				
	なし。				
開催シンポジウム等	開催シンポジウム等				
	JpGU2019 ユニオンセッション「地球惑星科学の進むべき道 9 : 大型研究計画とマスタープラン 2020 (JpGU と共催)」(令和元年 5 月 27 日)				

	分科会では平成 30 年 10 月以降に公開シンポジウム 4 回開催。
開催状況	第 24 期 6 回開催 平成 30 年 10 月以降 第 5 回平成 30 年 12 月 27 日, 第 6 回平成 31 年 5 月 26 日
今後の課題等	<ul style="list-style-type: none"> ・地球惑星科学分野の夢ロードマップ改定版の公表。 ・令和 2 年 JpGU におけるユニオンセッションの開催。 ・第 23 期及びそれ以前の提言、報告、記録のフォローアップ。 ・第 25 期新規会員及び新規連携会員の選定。

地球惑星科学委員会 地球惑星科学企画分科会					
委員長	藤井良一	副委員長	田近英一	幹事	木村学, 春山成子
主な活動	審議内容				
	地球惑星科学委員会の活動方針を受け、地球惑星科学委員会での議題や審議の準備と調整、委員会傘下の分科会や小委員会の活動支援等、委員会の執行部機能を果たすとともに日常的な運営活動を実施した。				
	意思の表出（※見込み含む）				
	なし。				
	開催シンポジウム等				
	なし。				
開催状況	第 24 期 8 回開催 第 6 回平成 30 年 10 月 7 日, 第 7 回 12 月 14 日, 第 8 回 12 月 27 日				
今後の課題等	上記活動を継続して進めるとともに、地球惑星科学委員会及び参加の分科会及び小委員会の活動の対外発信を実施する予定である。				

地球惑星科学委員会 地球・惑星圏分科会					
委員長	田近 英一	副委員長	大谷 栄治	幹事	山岡 耕春, 関 華奈子
主な活動	審議内容				
	地球惑星科学分野における学術の大型研究計画（マスタープラン）について、ヒアリングを 2 回実施して支援を行うとともに、地球惑星科学各分野におけるロードマップ及び地球惑星科学全体のロードマップの改訂を行った。				
	意思の表出（※見込み含む）				
	なし				
	開催シンポジウム等				
	なし				

開催状況	平成 30 年 12 月 27 日、12 月 28 日、令和元年 5 月 26 日
今後の課題等	地球惑星科学の課題, とくに基礎研究力の衰退への対応について議論を行う。

地球惑星科学委員会 地球・人間圏分科会					
委員長	春山成子	副委員長	平田直	幹事	伊藤悟、小嶋智
主な活動	審議内容				
	Future Earth と SDG s に配慮しつつ地球・人間圏科学の推進に向けて 24 期の夢ロードマップ改定にむけた審議、大型研究計画に向けた議論を行った。データ可視化の重要性を踏まえてシンポジウム「グローバル時代のデータ利用の可視化」を開催し、地球温暖化と異常気象を柱としたシンポジウム「繰り返される災害」では教員、防災に取り組む一般市民の参加者を得て議論を行った。令和元年 12 月 21 日に次のシンポジウムとして「地球環境変動と人間活動」を企画するための議論を行った。24 期では 3 回の公開シンポジウムでの議論、5 回の分科会での議論を踏まえ地球人間圏科学からの災害レジリエンスにかかわる提言案作成に向けた審議を行った。令和元年 12 月 21 日には提言案にかかわる議論を深める予定である。				
	意思の表出 (※見込み含む)				
	地球規模での環境変動と災害を視野にいれた防災についての提言案を取りまとめる予定である。				
	開催シンポジウム等				
平成 30 年 10 月 15 日公開シンポジウム「グローバル時代のデータ利用の可視化」、平成 31 年 4 月 5 日公開シンポジウム「繰り返される災害—少子高齢化社会を生き抜くために—」 (予定) 令和元年 12 月 21 日公開シンポジウム「地球環境変動と人間活動—世界各地で急速に深刻化する地球温暖化の影響と対策—」					
開催状況	第 4 回平成 30 年 10 月 15 日、第 5 回平成 31 年 4 月 5 日				
今後の課題等	24 期の提言案にかかわる審議				

地球惑星科学委員会 地球惑星科学人材育成分科会					
委員長	木村 学	副委員長	福田 洋一	幹事	西 弘嗣、西山 忠男
主な活動	審議内容				
	大学に、現状に関するアンケート項目を検討し (第 5 回委員会)、アンケートを実施 (平成 31 年 4 月)、関連専攻長・学科長会議を開催した (令和元年 5 月 27 日)。地学・地理学初等中等教育検討小委員会 (令和元年 6 月 3 日) にて提言に向けて具体的執筆分担の議論を行った。				

	意思の表出（※見込み含む）
	高等学校地学、地理学教育の充実改善のための提言（予定）。
	開催シンポジウム等
	なし
開催状況	<ul style="list-style-type: none"> 地球惑星科学人材育成分科会開催：平成 30 年 12 月 26 日 地学・地理学初等中等教育検討小委員会開催：平成 30 年 9 月 20 日、令和元年 6 月 3 日
今後の課題等	<ul style="list-style-type: none"> 初等中等地学地理教育の充実、改善について提言を目指す。 高等（大学・大学院）地球惑星科学教育、早期キャリア育成について方向をまとめる。

地球惑星科学委員会 地球惑星科学国際連携分科会					
委員長	中村 尚	副委員長	小口 高	幹事	伊村 智 塩川和夫
主な活動	審議内容				
	地球惑星科学分野の国際活動の振興、国際対応の各分科会や直属小委員会との連絡・調整に関する諸事項の審議をおこなう。				
	意思の表出（※見込み含む）				
	とくになし。				
	開催シンポジウム等				
地球惑星科学委員会傘下の国際連携に関わる分科会が主催するシンポジウムを支援し、傘下の国際対応小委員会による国際学術総会の招致活動を支援する。特に、平成 31 年は日本学術会議加盟団体の 1 つである国際測地学・地球物理学連合 (IUGG) の設立 100 周年に当たり、IUGG 分科会と協力して令和元年 5 月 30 日に日本地球惑星科学連合大会にてユニオンセッションを開催し、IUGG 前事務総長（現 ISC 事務総長）Ismail-Zadeh 博士を招待した。中村委員長が日本学術会議の IUGG 活動への貢献について講演を行った。					
開催状況	24 期第 2 回：平成 30 年 12 月 25 日開催。				
今後の課題等	地球惑星科学における国際連携の重要性は益々高まっており、関連分科会・小委員会が対応する国際組織執行部により多くの日本人科学者を送ることが重要となる。				

地球惑星科学委員会 IGU 分科会					
委員長	小口 高	副委員長	井田 仁康	幹事	山田 育穂
主な活動	審議内容				

	1) IGU (国際地理学連合) の活動と日本の貢献に関する審議、2) 地理オリンピックに関する審議、3) ICA (国際地図学協会) の 2019 年東京大会 (7/15～20) に関する審議、4) IAG (国際地形学会) の活動に関する審議、5) 地名に関する諸問題 (標準化など) の審議、6) 公開シンポジウムの企画。3～5 は対応する小委員会がそれぞれ設置されており、そこでの検討を含む。
	意思の表出 (※見込み含む)
	地名に関する報告「地名標準化の現状と課題」を令和元年 9 月 20 日に公表。
	開催シンポジウム等
	令和元年 5 月 13 日に公開シンポジウム「日本における地名標準化の現状と課題」を開催。
開催状況	平成 30 年 11 月 19 日
今後の課題等	地名に関する報告の活用に関する検討、IGU の 2020 年トルコ大会への対応

地球惑星科学委員会 IUGG 分科会					
委員長	中田節也	副委員長		幹事	佐竹健治 東久美子
主な活動	審議内容				
	<ul style="list-style-type: none"> 2019 年 (令和元年) に創設百周年を迎える IUGG に関して、令和元年 5 月に開催される地球惑星科学連合大会に、記念のセッションを提案することを決定。 第 27 回 IUGG 総会と 8 アソシエーション総会に出席する日本代表への信任状の発行を武内副会長に令和元年 1 月依頼。2 月直接 IUGG 事務局に送付された。 IUGG 総会に派遣する代表 2 名を決めた (中田分科会委員長と辻村 IAH S 小委員長)。 IUGG 総会における日本代表の投票内容 (IUGG 役員選挙、次期総会開催地、予算) について審議し、8 アソシエーションの役員に日本人が選ばれるように呼びかけた。その結果、IASPEI 会長 (IUGG Executive Committee 委員) に佐竹健治氏、IAVCEI 副会長に井口正人氏らが各アソシエーション総会で選ばれた。 山極会長や分科会委員長が招待されていた IUGG 百周年記念式典 (ユネスコ本部で 7 月 29 日開催) に代理が出席し、創設時 8ヶ国として表彰盾を受けた。 				
	意思の表出 (※見込み含む)				
	特になし。				
	開催シンポジウム等				

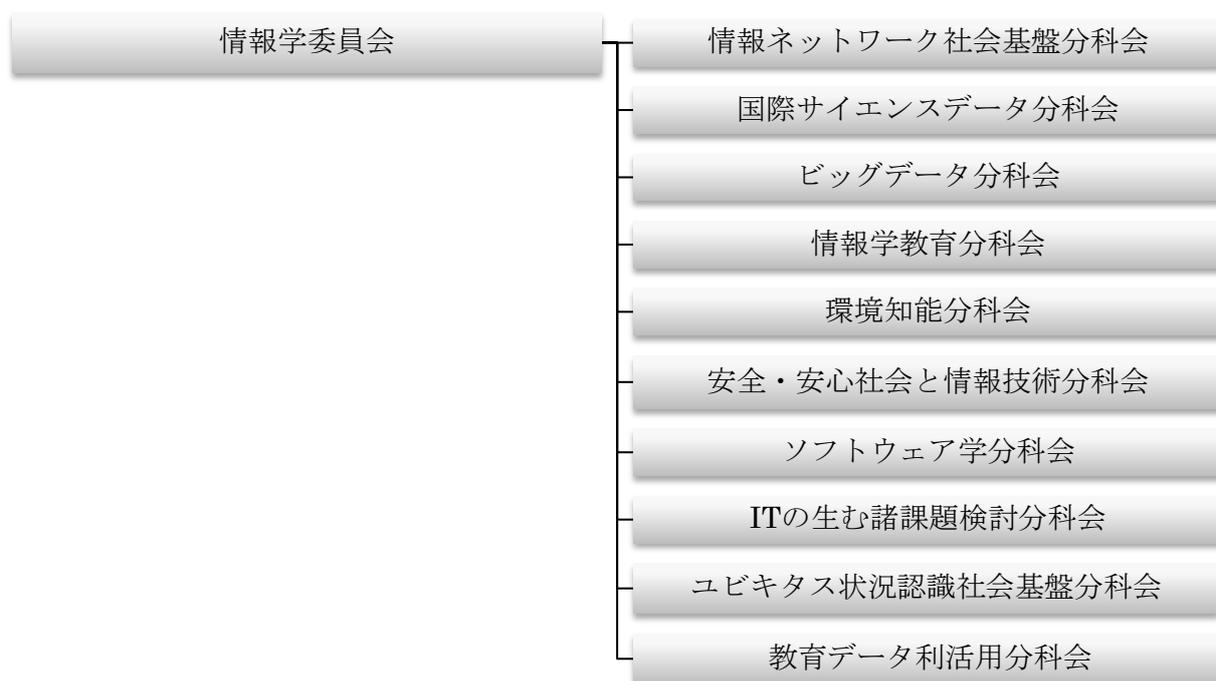
	・令和元年5月30日地球惑星科学連合大会（千葉市）においてユニオンセッション「100周年を迎える IUGGへの日本の貢献」を英語で開催した。
開催状況	<ul style="list-style-type: none"> ・平成30年11月28日に第24期第3回分科会を開催。 ・令和元年5月30日に第24期第4回分科会を開催。 ・令和元年7月15日 IUGG 評議会における次期開催国の日本票についてメール審議。
今後の課題等	令和元年12月に第5回を開催予定で、IUGG 総会の到達点について議論する。

地球惑星科学委員会 IUGS 分科会					
委員長	西 弘嗣	副委員長	北里 洋	幹事	斎藤文紀、益田晴恵
主な活動	審議内容				
	<p>IUGS 分科会は、2018年（平成30年）11月に IUGS の Bureau 会議、公開シンポジウム「地質災害リスク軽減研究の最先端：地質科学は科学と社会にどう貢献できるのか？」（仙台）を開催し、2019年（令和元年）2月の IUGS 理事会（中国・北京）にも参加した。ジオハザード・タスクグループ（TGG）は、2019年（令和元年）3月にベトナム北部における地質災害調査、国際会議でセッション（中国・北京）を開催した。津波調査ガイドライン（論文）の作成や IUGS-E-Bulletin の原稿の準備も行っている。IAH 小委員会は、オーストラリアでセミナーを開催し、日本地下水学春季講演会若手セミナーを実施した。ICS 小委員会ではチバニアン<small>（注）</small>の審議状況が報告された。IPA 小委員会は中国との国際協力の進め方、国際生物学賞に関する報告があった。IAGC 小委員会では、Geochemical Society の活動を行った。</p>				
	意思の表出（※見込み含む）				
	特になし				
	開催シンポジウム等				
平成30年11月に公開シンポジウム「地質災害リスク軽減研究の最先端：地質科学は科学と社会にどう貢献できるのか？」（仙台）を、令和元年5月に日本地球惑星科学連合2019年大会（千葉）で地質年代小委員会 ILP 小委員会 <small>（注）</small> がセッションを開催した。					
開催状況	IUGS 分科会は令和元年6月18日、IAH 小委員会は平成31年1月12日（立正大学）、地質年代小委員会は、令和元年5月30日（幕張メッセ）、ICS 小委員会では、令和元年5月26日（幕張メッセ）、IPA 小委員会は平成31年1月25日（静岡大学）に開催した。				
今後の課題等	IUGS の理事会に財務理事を派遣（北里委員）しており、IUGSとのさらなる連携強化を行う。Task Group on Geohazards (TGG)活動にも積極的な支援を行う。今期の目標として、ジオパーク関連の活動を強化することを目指す。				

地球惑星科学委員会 SCOR 分科会					
委員長	山形俊男	副委員長	窪川かおる・張 勁	幹事	蒲生俊敬・沖野郷子
主な活動	審議内容				
	<ul style="list-style-type: none"> ・ SCOR (海洋研究科学委員会) における我が国の国際貢献度を高め、かつ国内の海洋科学研究・教育の推進と社会的発信の強化を図る方策について議論し、24 期の分科会として、シンポジウムの開催や「報告」による意見の表出などを通して具体的な活動を行うことを審議。 ・ 分科会所属の GEOTRACES、SIMSEA、IIOE-2 の 3 小委員会が活動。IIOE-2 は国連総会で決議された「持続可能な開発のための海洋科学の 10 年」に向けた準備も行う。 ・ 平成 30 年 9 月に英国プリマスで開催された年会において、SCOR 執行部副議長に張 勁副委員長が就任。 ・ 平成 30 年 12 月 25 日に公開シンポジウム「海洋観測における研究船の役割：成果と展望」を開催。ここでの議論を深めて、「研究船による海洋観測：地球環境問題解明と社会への成果還元へ向けて」と題する「学術の動向」11 月号特集企画が進行中。 ・ 令和元年に発足予定の SCOR WG 提案 6 件についてレビューし、我が国の評価結果を 7 月中に SCOR 国際事務局に提出予定。 ・ 令和元年 9 月 22 日-25 日に富山国際会議場にて SCOR 年会を開催予定。最終日午後に日本海洋学会と共催で「日本の海洋科学：現在と将来」と題する公開シンポジウムを行う予定。 				
	意思の表出 (※見込み含む)				
	「学術の動向」特集企画をもとに、我が国の海洋科学のあるべき姿について「報告」を準備予定。				
	開催シンポジウム等				
<ul style="list-style-type: none"> ・ 平成 30 年 12 月 25 日「海洋観測における研究船の役割：成果と展望」(学術会議講堂)、令和元年 9 月 25 日「日本の海洋科学：現在と将来」(富山国際会議場) 					
開催状況	平成 30 年 10 月 9 日～10 月 12 日※メール審議、平成 30 年 12 月 25 日、令和元年 5 月 20 日～23 日※メール審議、令和元年 7 月 4 日				
今後の課題等	平成 30 年 12 月に海洋研究船の役割の重要性に関する公開シンポジウムを開催したが、わが国の海洋観測体制の現状を危惧した多くの参加者(約 150 名)があった。国連総会で決議された「持続可能な開発のための海洋科学の 10 年」が 2021 年(令和 3 年)に始まることもあり、海洋科学、特に観測の重要性について関係教育研究機関、学協会などと協力し、広く社会の理解を仰ぐ。				

委員長	高橋桂子	副委員長	大久保修平	幹事	田近英一， 益田晴恵
主な活動	審議内容				
	近年、環境・資源・エネルギー・自然災害など地球と人間社会の関係に関する問題はますます顕在化し、かつグローバルな規模となっている。このような課題への対応に関して、地球惑星科学の役割は増々大きくなっている。本分科会は、地球惑星科学が社会に対してどのような貢献ができるのかを考え、第 22 期にとりまとめた提言のフォローも含め、今後のアクションプランをとりまとめる、具体的には、アクションプラン実現のための具体的方策を提言としてまとめるとともに、当該分野コミュニティへの普及や広報、啓発活動、社会貢献事業などを通してアクションプランの実現につなげる。				
	意思の表出（※見込み含む）				
	提言として取りまとめる予定である。				
	開催シンポジウム等				
	なし。				
開催状況	平成 30 年 4 月 2 日、平成 30 年 7 月 31 日、その他メールでの議論。				
今後の課題等	自然災害（防災とは異なる意味で）に対する学術からの貢献について、課題の整理と議論を深める。				

⑭情報学委員会



情報学委員会					
委員長	徳田英幸	副委員長	東野輝夫	幹事	相澤清晴 相澤彰子
主な活動	<p>審議内容</p> <p>*情報学シンポジウム「データドリブンエコノミーの実践」を企画し、二部構成で H31/1/11 に学術会議講堂にて開催した。第一部では、駐日欧州代表連合部、文部科学省から講演者をお招きし、欧州、日本における情報学分野の研究戦略に関して議論をした。第二部では、データ利活用のイノベーションの取り組みについて、4名からの講演と最先端の情報技術のもとデータが生み出す価値や社会的インパクトについて総合討論を行った。</p> <p>*情報学委員会のもとに設置された以下の分科会で活動を行った。</p> <p>情報ネットワーク社会基盤分科会 国際サイエンスデータ分科会 ビッグデータ分科会 情報学教育分科会 環境知能分科会 安全・安心社会と情報技術分科会 ソフトウェア学分科会 ITの生む諸課題検討分科会 ユビキタス状況認識社会基盤分科会 教育データ利活用分科会（心理学・教育学委員会と合同）</p>				

	意思の表出（※見込み含む）
	情報学委員会としての予定はないが、分科会レベルでの提言を検討中である。
	開催シンポジウム等
	H31/1/11: 情報学シンポジウムとして、「データドリブンエコノミーの実践」を開催。学会会議講堂 詳細 http://scj-info.nii.ac.jp/symposium12.html R2/1/9: 情報学シンポジウムを企画予定
開催状況	3回開催（H30/10/4, H31/1/10, H31/4/24）
今後の課題等	

情報学委員会 情報ネットワーク社会基盤分科会					
委員長	下條 真司	副委員長	江崎 浩	幹事	大柴 小枝子
主な活動	審議内容				
	24 期中に大型研究計画（マスタープラン）や提言等をまとめていくことを目標に、ビッグデータや IoT に基づくエネルギー、交通など新たな社会サービスを支えるネットワークそのもの、スマートネットワーク、モビリティネットワークなどを変革する社会デザインとともに議論し、その課題や人材育成などをテーマに議論を進めた。大型研究計画として採択される予定。テーマに関して、ビッグデータ分科会、ユビキタス状況認識社会基盤分科会と共同でシンポジウムを開催予定。				
	意思の表出（※見込み含む）				
	シンポジウムにおいては、Society 5.0 の人間社会中心の進め方について、議論し提言などにまとめていく予定。				
開催状況	開催シンポジウム等				
	令和元年 11 月 15 日に「Society5.0 時代の CPS」をビッグデータ分科会、ユビキタス状況認識社会基盤分科会と共同で開催予定				
開催状況	平成30年10月1日（月）「AIビジネスに関する法務・契約・知財 _～現場での最先端課題を題材に～」講演会をビッグデータ分科会、ユビキタス状況認識社会基盤分科会と共催。				
今後の課題等	社会科学との交流を深めるべく模索中。				

情報学委員会 ビッグデータ分科会

委員長	木俣豊	副委員長	相澤清晴	幹事	鳥澤健太郎 辻ゆかり
主な活動	審議内容				
	昨年実施した著作権改正などの法的な課題の議論に続いて、ビッグデータを活用した耐災害技術について分科会で議論を行い、シンポジウムなどの議論の場を設けることを審議した。				
	意思の表出（※見込み含む）				
開催状況	開催シンポジウム等				
	当初、9月に情報学委員会情報ネットワーク社会基盤分科会、情報学委員会ユビキタス状況認識社会基盤分科会と共同でシンポジウムを開催する計画としていたが、他の分科会が同時期に同様のテーマでシンポジウムを開催することがわかり、テーマと開催時期を変更して11月15日に開催する予定である。				
今後の課題等	シンポジウムの日程およびプログラムの確定				

情報学委員会 情報学教育分科会					
委員長	萩谷昌己	副委員長	徳山豪	幹事	岩崎英哉
主な活動	審議内容				
	初等中等から大学専門基礎までの情報教育を体系化する「情報教育の参照基準」の策定を進め、令和元年5月18日に公開シンポジウムを開催して広く意見を募った。その結果をもとに査読用原稿を完成させた。				
	意思の表出（※見込み含む）				
	報告「情報教育の参照基準」の査読用原稿を作成し、10月の情報学委員会における審議を待っている。				
開催状況	開催シンポジウム等				
	令和5月18日に公開シンポジウム「情報教育の参照基準」を東京大学山上会館にて開催した。				
今後の課題等	「情報教育の参照基準」については、査読結果に基づいて改訂を行う。				

情報学委員会 環境知能分科会

委員長	萩田 紀博	副委員長	土井 美和子	幹事	西田真也 橋本隆子
主な活動	審議内容				
	<ul style="list-style-type: none"> ・第4回：平成30年度の分科会3回、第1回公開シンポジウム「人工知能(AI)やロボットは百寿社会を幸福にするのか？」の結果を踏まえて、百寿社会時代に相応しい情報学の在り方を次の点に着目して議論。 ・情報通信、人工知能、ロボットなどの急激な進歩にバランスよく適応できればいいが、逆に「生きづらさ」を感じている場合も増えてきている。そこで、世代間や世代共通のギャップ、個と社会の棲み分け、サイバーとフィジカル空間との切替えの難しさなどを分析し「生きづらさ」を解消するための情報学的生存技術 Information Survival Technology に関する提言の可能性を議論。 ・11月に第7回分科会および第2回公開シンポジウム「百寿社会に生き残るための情報学的生存技術」の開催し、提言をまとめる。 ・昨年度の活動は、記録案「第24期情報学委員会環境知能分科会記録-シンポジウム記録-」にまとめ、現在 審査へ移行。 ・課題別委員会「認知障害に関する包括的検討委員会」には第三部代表として当分科会委員長と副委員長が委員として参加。 				
	意思の表出（※見込み含む）				
	令和元年～令和2年度に提言を予定。				
	開催シンポジウム等				
	R1/11/2(土)第7回分科会および第2回公開シンポジウム「百寿社会に生き残るための情報学的生存技術」(芝浦工業大学芝浦キャンパス)の開催予定				
	分科会開催：H31/1/10(木)第4回分科会, 第5回分科会メール審議 R1/6/7(金)-6/14(金)：記録案「第24期情報学委員会環境知能分科会記録-シンポジウム記録-」の承認について。第6回分科会メール審議 7/10(水)-7/17(水)：公開シンポジウム「百寿社会に生き残るための情報学的生存技術」の主催について。				
今後の課題等	記録案「第24期情報学委員会環境知能分科会記録-シンポジウム記録-」の登録				

情報学委員会 安全・安心社会と情報技術分科会					
委員長	柴山 悦哉	副委員長	宮地 充子	幹事	高田 広章 松浦 幹太
主な活動	審議内容				
	<ul style="list-style-type: none"> ・前期に引き続き、サイバーセキュリティ、パーソナルデータの保護と利用、IoT、ビッグデータ、AIなどの発展が社会に及ぼす影響について、学術的な観点からの問題分析と貢献の可能性について検討を行なった。 				

	<ul style="list-style-type: none"> ・ 昨年に引き続き、セキュリティ研究のための研究倫理ガイドラインに関する検討を行なった。
	意思の表出（※見込み含む）
	<ul style="list-style-type: none"> ・ 第 23 期報告「社会の発展と安全・安心を支える情報基盤の普及に向けて」の内容を深化させ、提言を作成するための検討を昨年に引き続き行なった。
	開催シンポジウム等
開催状況	平成 31 年 1 月 10 日、令和元年 10 月 10 日（予定）
今後の課題等	社会情勢の変化が急激であるため、タイムリーな審議とその結果を公表を行うことが課題である。

情報学委員会 ソフトウェア学分会					
委員長	松本健一	副委員長	大堀淳	幹事	山本里枝子，位野木万里
主な活動	審議内容				
	産官学を統合した学際的で分野融合的な視点で，ソフトウェアのありよう，ソフトウェアを社会基盤たらしめる研究開発，産業界から求められるソフトウェア技術とその実践力，ソフトウェアの本質を見据えた人材育成といった諸課題について審議を行った。また，そこでの議論を一部反映した内容でマスタープラン 2020 への申請を行った。				
	意思の表出（※見込み含む）				
	該当なし。ただし、「提言」あるいは「報告」の表出に向け，骨子案の作成など具体的な作業を継続中。				
	開催シンポジウム等				
	該当なし				
開催状況	該当なし				
今後の課題等	提言骨子案を「情報学の新たな枠組みとしての次世代ソフトウェア学の創生」と改題し検討中である。提言，あるいは，報告としての表出に向け，委員意見の集約が必要である。				

情報学委員会 IT の生む諸課題検討分会

委員長	喜連川 優	副委員長	安浦 寛人	幹事	東野 輝夫, 須藤 修
主な活動	審議内容				
	<p>・公開シンポジウム「AIによる法学へのアプローチ」、「災害時におけるICTの役割・反省・今後」の開催時期や講演者、シンポジウムのパネルディスカッションの課題などを議論すると共に、様々な分野で利活用されているAIやビッグデータの「光」と「影」など、ITの生む諸課題について、様々な角度から議論を行った。</p>				
	意思の表出（※見込み含む）				
	該当なし				
	開催シンポジウム等				
<p>・平成31年1月24日（木）に、公開シンポジウム「AIによる法学へのアプローチ」を実施し、法学に対して人工知能技術がどのような応用がされてきたかなどを議論した。</p> <p>・令和元年9月4日（水）に、公開シンポジウム「災害時におけるICTの役割・反省・今後」を実施し、災害発生後の情報伝達の仕組みや、災害時のICTの役割などについて議論した。</p>					
開催状況	平成31年1月10日（木）、平成31年1月24日（木）、令和元年9月4日（水）				
今後の課題等	今後もシンポジウムの開催を通してITの生む諸課題を検討していく。				

情報学委員会 ユビキタス状況認識社会基盤分科会					
委員長	東野 輝夫	副委員長	美濃 導彦	幹事	佐藤 一郎, 盛合 志帆
主な活動	審議内容				
	<p>平成30年10月1日（月）に、ビッグデータ分科会、情報ネットワーク社会基盤分科会と共同でユビキタス状況認識社会基盤分科会を開催し、STORIA法律事務所の柿沼太一氏の講演「AIビジネスに関する法務・契約・知財～現場での最先端課題を題材に～」を実施し、AIと法律・知財に関する問題を議論するとともに、当該領域の我が国の立法のあり方などについても議論した。</p>				
	意思の表出（※見込み含む）				
	該当なし				
	開催シンポジウム等				
令和元年の秋を目処に公開シンポジウムを開催する予定である。					
開催状況	平成30年10月1日（月）、平成31年1月10日（木）				
今後の課題等	Society 5.0時代のデータ収集の有り方やプライバシー保護策などを検討するとともに、医療、農業、防災など様々な分野で検討されているAIやビッグ				

	データの活用に対して当該分野の研究者と情報学分野の研究者の間のギャップをどう埋めていくのか、などを公開シンポジウムの開催などを通して、議論していきたいと考えている。
--	--

心理学・教育学委員会・情報学委員会合同 教育データ利活用分科会					
委員長	美濃 導彦	副委員長	楠見 孝	幹事	緒方 広明、谷口 倫一郎
主な活動	審議内容				
	エビデンスに基づく教育を実現するために、今後極めて重要になる教育データの利活用に向けた、諸課題の抽出と実現のための方策について議論を行った。特に、心理学・教育学および情報学の2つの異なる視点からの議論を集中的に進めた。				
	意思の表出（※見込み含む）				
	教育データの利活用に向けた提言を令和元年度中に表出すべく準備中である。				
	開催シンポジウム等				
	平成31年3月22日に京都大学で「ラーニングアナリティクスによるエビデンスに基づく教育に関する国際シンポジウム」を開催した。				
開催状況	平成30年10月4日、平成31年1月22日、平成31年3月22日に開催した。また、それ以外に1回のメール審議を行った。				
今後の課題等	教育データの利活用に向けた課題の再確認とそれに基づく提言の完成。				

㊦化学委員会



化学委員会					
委員長	加藤 昌子	副委員長	茶谷 直人	幹事	君塚 信夫、関根 千津
主な活動	審議内容				
	<p>・化学委員会の下、14の分科会による合同会議を開催した（平成30年12月27日）。全体会議では、化学委員会および各分科会から、活動状況報告を行うとともに、国連UNESCO認定の国際周期表年（IYPT2019）に関する活動紹介と協力依頼（山内薫連携会員）が行われた。また、研究力強化に関連した講演「世界および中国の科学技術の現状について」（講師：林 幸秀氏（科学技術振興機構研究開発戦略センター上席フェロー））および、今期のテーマ「化学とAI」についての小委員会活動に関する講演（講師：阿尻雅文委員）を行った。</p> <p>・「情報科学との融合による新化学創成小委員会」において検討中の提言内容について下記公開シンポジウムで議論した（令和元年5月29日）。</p>				
	意思の表出（※見込み含む）				

	開催シンポジウム等
	・公開シンポジウム「分子科学研究所所長招聘会議『化学の近未来：化学と情報科学との融合』」（令和元年5月29日、於愛知県岡崎市）
開催状況	(24期) 第5回 平成30年10月3日 第6回 平成30年12月27日 第7回 平成31年4月25日 第8回 令和元年5月29日 第9回 令和元年12月26日(予定)
今後の課題等	大学改革に関連して議論する。

化学委員会 化学企画分科会					
委員長	加藤 昌子	副委員長	茶谷 直人	幹事	君塚 信夫、関根 千津
主な活動	審議内容				
	<ul style="list-style-type: none"> ・上記化学委員会の活動と連携して、公開シンポジウム(令和元年5月29日)および合同分科会(平成30年12月27日)における具体的な企画を行った。 ・今期の主要テーマ「化学とAI」に関して、「情報科学との融合による新化学創成小委員会」(委員長：阿尻雅文)において、提言を作成に向け調査、議論を重ねた。 				
	意思の表出(※見込み含む)				
	<ul style="list-style-type: none"> ・「情報科学との融合による新化学創成小委員会」において、提言「化学・情報科学の融合による新化学創成・化学教育と社会との連動(仮題)」を作成中。 				
	開催シンポジウム等				
	・公開シンポジウム「分子科学研究所所長招聘会議『化学の近未来：化学と情報科学との融合』」（令和元年5月29日、於愛知県岡崎市）				
開催状況	(24期) 第2回 平成30年12月27日 第3回 令和元年5月27日 第4回 令和元年12月26日(予定)				
今後の課題等	大学改革に関連して議論する。				

化学委員会 IUPAC 分科会					
委員長	酒井 健	副委員長	茶谷 直人	幹事	竹内 孝江、所 裕子
主な活動	審議内容				
	<ul style="list-style-type: none"> ・委員長、副委員長、幹事3名を選出し、これまでの活動報告を踏まえ、今期の活動方針を議論した(平成30年12月27日)。 ・各国が負担するIUPAC分担金について、各国の経済的データにもとづいた金額に改正されたこと、日本の分担金の金額が変更されたことを、日本学会に報告した。 				

	<ul style="list-style-type: none"> ・国際周期表年・各種記念事業および国際周期表年国内イベント・閉会式の進め方などについて、議論を行った。 ・IUPACのDivisionsやStanding Committeesの活動に、より多くの日本からの委員が参加していくために、Titular Members, Associate Members, National Representativesの候補を推薦した(平成31年1月末締切)。 ・平成31年2月23日に公開シンポジウム“2/23記念シンポジウム 国際周期表年2019「周期表が拓く科学と技術 国際周期表年を迎えて」”を開催した(日本学術会議講堂、参加者約200名)。 ・IUPAC2019: 50th General Assemblyおよび47th Congress(令和元年7月5-12日)に、本分科会委員の中から、酒井、竹内、所が参加。
	意思の表出(※見込み含む)
	<ul style="list-style-type: none"> ・2/23記念シンポジウム 国際周期表年2019「周期表が拓く科学と技術 国際周期表年を迎えて」 ・IUPAC Bureau MeetingおよびIUPAC2019: 50th General Assemblyに出席、各種会合における討論に参加
	開催シンポジウム等
	<ul style="list-style-type: none"> ・2/23記念シンポジウム 国際周期表年2019「周期表が拓く科学と技術 国際周期表年を迎えて」 http://www.iypt2019.jp/custom.html ・IUPAC2019: 50th General Assemblyおよび47th Congress(令和元年7月5-12日)
開催状況	平成30年12月27日、平成31年2月23日
今後の課題等	国際周期表年公式閉会式(日本で開催予定)への協力、IUPAC DivisionsやStanding Committeesの活動への日本メンバーの参加

化学委員会 IUCr 分科会					
委員長	高田昌樹	副委員長		幹事	井上豪・菅原洋子
主な活動	審議内容				
	<ul style="list-style-type: none"> ・国際結晶学連合(IUCr)分野別委員会の活動報告を取りまとめた。 ・2020年に開催される国際結晶学連合会議(IUCr2020)に向けたプログラム編成に関わり、国際プログラム委員会に対してPL、KNなどの推薦を行った。 ・IUCr2020会期中に開催される国際結晶学連合総会における次期分野別委員会委員の選出に向け、20委員会全てに対し委員候補の推薦を行った。 				
	意思の表出(※見込み含む)				
	なし				

	開催シンポジウム等
	なし
開催状況	平成30年12月27日 令和元年5月29日
今後の課題等	<ul style="list-style-type: none"> ・IUCr2020等の機会を通じて、我が国の学術研究の visibility を高めていく。 ・IUCrにおけるジェンダーバランスの実現に寄与していく。

化学委員会 物理化学・生物物理化学分科会					
委員長	相田 美砂子	副委員長	所 裕子	幹事	山本 達之、村越 敬
主な活動	審議内容				
	<p>第3回分科会（平成30年12月27日）①地方にある大学の教育研究環境の改善のための制度や、そのための予算のあり方について、②情報科学の有益な活用、学生に行うべき教育、データベースの有益な活用法について、議論した。</p> <p>第4回分科会（令和元年5月30日）①前日に開催された分子研研究会「化学・情報科学の融合による新化学創成に向けて」を踏まえ、今後、化学委員会から出される提言の内容について、②物理化学・生物物理化学の分野における研究評価について、③地方にある大学の教育研究環境に関する問題提起について、議論した。</p>				
	意思の表出（※見込み含む）				
	開催シンポジウム等				
開催状況	平成30年12月27日、令和元年5月30日				
今後の課題等	地方にある大学における教育研究環境の現状把握と課題について、令和元年12月に開催予定の公開シンポジウムにおいて話題提供する。				

化学委員会 有機化学分科会					
委員長	中村 栄一	副委員長	中西 和嘉	幹事	澤村 正也、山口 茂弘

主な活動	審議内容
	有機化学の展開のために重要な項目として下記を審議した。 (1) 有機化学における AI の活用のための教育と研究, 化学教育, 研究全般への展開の方策 (2) 有機化学におけるアジアでの競争と協調, 日本国内の合成力強化の必要性 (3) 単分子レベルの有機化学の現状と今後の展開 (公開シンポジウム開催) (4) 新技術 (Micro ED 等) による小分子解析法の現状, 今後の基礎研究と研究開発へのインパクト
	意思の表出 (※見込み含む)
	なし
	開催シンポジウム等
	令和元年 5 月 28 日 公開シンポジウム「単分子有機化学の挑戦」
開催状況	第 24 期・第 2 回 (平成 30 年 12 月 27 日) 第 24 期・第 3 回 ※メール審議 第 24 期・第 4 回 (令和元年 5 月 29 日)
今後の課題等	日本国内の合成力強化, 新技術を利用した小分子微量分析

化学委員会 高分子化学分科会					
委員長	吉江尚子	副委員長	上垣外 正己	幹事	岸村顕広、佐々木園
主な活動	審議内容				
	社会問題となっている海洋プラスチックについて議論し、大型施設計画・大規模研究計画に関するマスタープラン公募に対して「地球規模のマイクロプラスチック問題を解決する未来型高分子材料分野の創成」を提案した。令和元年 5 月の分科会では、澤本委員に海洋プラスチック問題について講演を頂いた後、意見交換を行った。岸村委員が若手アカデミーとして 10 月の筑波会議および 11 月の World Science Forum(ブタペスト)で実施する SDGs 関連のセッションでも、この話題が取り上げられる予定である。				
	意思の表出 (※見込み含む)				
	海洋プラスチックに関する意思の表出について議論中である。				
	開催シンポジウム等				
なし					
開催状況	平成 30 年 12 月 27 日、令和元年 5 月 31 日				

今後の課題等	海洋プラスチック、高分子 100 年について、引き続き注視していく。
--------	------------------------------------

化学委員会 材料化学分科会					
委員長	関根千津	副委員長	小林昭子	幹事	伊藤耕三、寺西利治
主な活動	審議内容				
	<p>社会の変化や国内産業内での位置づけを念頭におき、材料化学の現状とアカデミアとしての進むべき方向性を検討すべく会議を開催し、議論をした。</p> <p>MI を材料化学領域にどのように活用できるか（原理解明や想定外の発見など）、そのための取り組みはどうあるべきか（異分野との融合、リスクなど）につき意見交換を行った。また若手に化学の魅力を伝えるために材料化学としてなすべきことも重要課題であると認識を確認した。</p>				
	意思の表出（※見込み含む）				
	なし				
	開催シンポジウム等				
なし					
開催状況	第1回 平成30年12月27日 第2回 令和元年9月10日（メールによる意見交換）				
今後の課題等	アカデミアとして材料化学分野で取り組むべきこと。				

化学委員会 分析化学分科会					
委員長	一村信吾	副委員長	谷口 功	幹事	竹内孝江、佐藤 縁
主な活動	審議内容				
	<p>第4回分科会にて公開シンポジウムのアンケート審議、第5回分科会にて2020マスタープランへの提案概要を審議。予算の関係からメール審議等で方針・内容を固めた上で、「最先端計測分析技術開発及び共同運用プラットフォーム」を2019（平成31）年3月末に提案。2019（平成31）年4月以降は9月のシンポジウム開催についてメール審議・開催</p>				
	意思の表出（※見込み含む）				
	開催シンポジウム等				
<p>共同主催シンポジウム「イノベーション創出に向けた計測分析プラットフォームの構築 -どんな基盤をつくり何をを目指すか-」（2019（令和元）年9月4日、幕張メッセ）</p>					
開催状況	第4回分科会開催（2018（平成30）年11月16日）、第5回分科会開催（2018（平成30）年12月27日）、第6回メール会議（2019（令和元）年6月14日）、第7回分科会開催（2019（令和元）年9月4日）				

今後の課題等	計測分析技術を取り巻く大きな変革（ビッグデータ、AI 技術等）に対応した活動の計画 24 期中の活動の「記録」（報告書）としてのとりまとめ
--------	--

物理学委員会・化学委員会合同 結晶学分科会					
委員長	菅原洋子	副委員長		幹事	上村みどり
主な活動	審議内容				
	<ul style="list-style-type: none"> ・ 第 24 期大型施設計画・大規模研究計画に関するマスタープランについて情報交換を行った。 ・ 第三部会において、小委員会を設けて進めている「情報科学との融合による新化学創成」にかかわる提言について、分科会において議論し、これに基づき、提言に対して結晶学分野からの意見を提出するとともに、とりまとめに参画した。また、公開シンポジウムにおいて本分科会の上村委員、阿久津委員が講演を行った。 ・ タンパク質構造解析分野で急発展している単粒子クライオ電顕などをテーマとしたマイクロシンポジウムの実施に参画するとともに、クライオ電顕の動向について議論した。 				
	意思の表出（※見込み含む）				
	・ 第三部会における「情報科学との融合による新化学創成」にかかわる提言に参画				
	開催シンポジウム等				
	平成 30 年 11 月 21 日シンポジウム「創薬の加速化を担う構造生物学の最前線～ 分子レベルから原子レベルの新しい解析技術の発展と応用～」開催（薬学委員会 化学・物理系薬学分科会主催、生物系薬学分科会他との共催）				
開催状況	平成 30 年 12 月 27 日 令和元年 5 月 29 日				
今後の課題等	・ 単粒子クライオ電顕とともに、今後の進展が予想されるマイクロ電顕等の新しい結晶構造解析技術についてキャッチアップし、シンポジウムなどの企画、意志の表出などを行っていく。				

化学委員会 生体関連化学分科会					
委員長	渡辺芳人（～2018. 12. 31） 成田吉徳（2019. 1. 1～）	副委員長	成田吉徳 （～2018.12.31）	幹事	
主な活動	審議内容				
	<ul style="list-style-type: none"> ・ 第 24 期学術大型研究計画への対応について ・ 科学研究力低下の原因と今後の増強に向けての方策についての討議 				

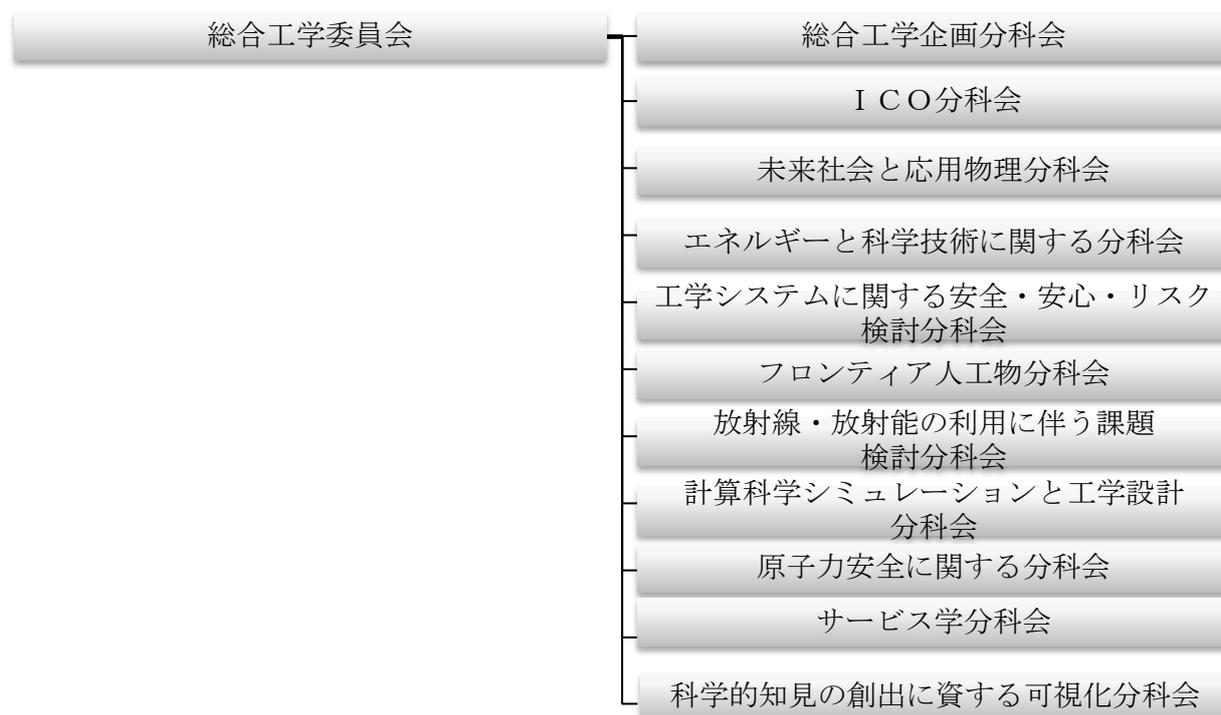
	意思の表出（※見込み含む）
	なし
	開催シンポジウム等
	なし
開催状況	平成30年12月27日
今後の課題等	本分野の急速な変化に対応すべく、今後の学術動向に関して関連学協会との協議を進める。

化学委員会・総合工学委員会・材料工学委員会合同 触媒化学・化学工学分科会				
委員長	阿尻 雅文	副委員長	所 千晴	幹事 工藤 昭彦 北川 尚美
主な活動	審議内容 触媒化学や石油化学を主分野とする研究者と化学工学を主分野とする研究者の連携推進、及び当該分野の深化・発展を目的とし、多角的な視点から意見交換や情報発信について審議を行った。そして、シンポジウム開催や意志の表出に取り組んだ。 意思の表出（※見込み含む） 第23期に纏めた記録「物質変換とCO2排出削減、その現状と課題～化学の視点から～」を踏まえ、今期は提言に向けて検討中である。 開催シンポジウム等 2018年11月27日公開シンポジウム「次世代エネルギー社会の超低炭素化に向けた課題とチャレンジー温室効果ガス80%削減のフィージビリティとリアリティについて考える(2)ー」開催 2019年4月12日公開シンポジウム「持続可能な社会に向けた科学技術と自然界での炭素・水素・酸素・窒素の循環の調和」開催			
開催状況	2018年9月13日, 2018年11月27日, 2018年12月27日, 2019年4月12日			
今後の課題等	24期中に複数のシンポジウムの開催と意志の表出を検討している。			

物理委員会・化学委員会合同 国際周期表年記念事業検討分科会				
委員長	酒井 健	副委員長	野尻 美保子	幹事 櫻井 博儀、所 裕子
主な活動	審議内容 ・国際周期表年2019にかかわる国内記念イベント事業および公式閉会式について議論を行い、本分科会が適宜協力していくことを確認した。 ・平成31年2月23日に公開シンポジウム“2/23 記念シンポジウム 国際周期表年2019「周期表が拓く科学と技術 国際周期表年を迎えて」”を開催した			

	(日本学術会議講堂、参加者約 200 名)。
	意思の表出 (※見込み含む)
	<ul style="list-style-type: none"> ・ 国際周期表年 2019HP http://www.iypt2019.jp/index.html ・ 2/23 記念シンポジウム 国際周期表年 2019 「周期表が拓く科学と技術 国際周期表年を迎えて」 (平成 30 年 2 月 23 日開催)
	開催シンポジウム等
	<ul style="list-style-type: none"> ・ 2/23 記念シンポジウム 国際周期表年 2019 「周期表が拓く科学と技術 国際周期表年を迎えて」 http://www.iypt2019.jp/custom.html
開催状況	平成 30 年 6 月 26 日、平成 30 年 8 月 19 日、平成 31 年 2 月 23 日
今後の課題等	国内記念イベント事業、国際周期表年公式閉会式(日本で開催予定) への協力

②⑥総合工学委員会



総合工学委員会					
委員長	吉村忍	副委員長	大倉典子	幹事	小山田耕二、所千晴
主な活動	審議内容				
	<p>総合工学委員会では、総合工学委員会及び関連する分科会、小委員会、シンポジウム等に関する事項を審議・決定するとともに、委員会が関わる諸活動を推進する。さらには、学協会等科学者コミュニティとの連携活動のあり方の検討などを含め、細分化された工学分野を複眼的・学際的に統合する役割を担う総合工学の位置づけや統合化への取り組み等を審議し、活動に反映させる。この活動において、23期に作成した提言「社会課題に立ち向かう『総合工学』の強化推進」の社会への具体的な展開について検討を行うとともに、23期に審議しきれなかった新規分野に関する検討も行っている。なお、117名の委員全員が出席する総合工学委員会の全体会議は、最低年1回は開催すべく努力している。</p>				
	意思の表出（※見込み含む）				
	<p>23期に作成した提言の社会への具体的な展開や新規分野に関する審議を行い、公開シンポジウムを開催し、それらの結果を報告としてまとめる予定。</p>				
主な活動	開催シンポジウム等				
	令和元年度に公開シンポジウムを開催することを検討している。				

開催状況	第3回を令和元年10月18日に開催すべく予定している。
今後の課題等	公開シンポジウムの企画・開催及び報告のとりまとめ。

総合工学委員会 総合工学企画分科会					
委員長	吉村忍	副委員長	大倉典子	幹事	小山田耕二、所千晴
主な活動	審議内容				
	総合工学委員会の運営及び活動を円滑かつ積極的に進めるために、会員及び総合工学委員会に所属する分科会代表者等からなる「総合工学企画分科会」を設置し活動を行っている。23期に作成した提言「社会的課題に立ち向かう『総合工学』の強化推進」の社会への具体的な展開及び、23期に議論しきれなかった新規分野について検討を行っている。				
	意思の表出（※見込み含む）				
	23期に作成した提言の社会への具体的な展開や新規分野に関する審議を行い、公開シンポジウムを開催し、それらの結果を報告としてまとめる予定。				
	開催シンポジウム等				
令和元年度に公開シンポジウムを開催することを検討している。					
開催状況	第3回を平成30年12月26日に、第4回を令和元年7月19日に開催した。				
今後の課題等	公開シンポジウムの企画・開催及び報告のとりまとめ。				

総合工学委員会 ICO 分科会					
委員長	荒川 泰彦	副委員長	五神 真	幹事	馬場 俊彦、松尾 由賀利
主な活動	審議内容				
	<ul style="list-style-type: none"> ・国際光デー関連シンポジウムを企画・開催するとともに、今後の国際光デー記念行事の実施方針について検討した。 ・光科学技術調査企画小委員会を設置した。 ・我が国の光科学技術コミュニティーの活性化について検討した。 				
	意思の表出（※見込み含む）				
	予定なし				
	開催シンポジウム等				
令和元年6月28日、日本学術会議講堂において、「国際光デーシンポジウム2019」を開催した。					
開催状況	平成30年12月25日に第3回分科会委員会、令和元年6月28日に第4回分科会委員会（光科学技術調査企画小委員会と合同）を開催した。その後国際光デーシンポジウム2019を開催した。				

今後の課題等	令和2年以降も光科学技術調査企画小委員会と協力して、国際光デー記念行事を定期的で開催する。令和2年は7月7日前後に実施予定。
--------	--

総合工学委員会 未来社会と応用物理分科会					
委員長	松尾 由賀利	副委員長	中野 義昭	幹事	伊藤 公平、為近 恵美
主な活動	審議内容				
	応用物理学分野の研究開発のあり方を検討、未来社会へ向けた施策と新たな融合分野創成の将来ビジョンから包括的提言を目指し、私立大学、地方国立大学からの視点も取り入れ議論を進める。このため提言企画、シンポジウム企画、の2つのワーキンググループ(WG)を設置し、活動を推進している。				
	意思の表出 (※見込み含む)				
	該当なし				
	開催シンポジウム等				
平成31年3月9日、公開シンポジウム「国公私大の地域を超えた役割と連携：未来社会の応用物理」を応用物理学会春季学術講演会（東京工業大学）にて開催。					
開催状況	第3回分科会委員会（平成30年11月7日）、第4回分科会委員会（令和元年8月22日、予定）を開催。				
今後の課題等	公開シンポジウムおよび提言WGの議論を反映させた提言をまとめ、これらの議論にもとづき令和2年に公開シンポジウムを開催する予定。				

総合工学委員会 エネルギーと科学技術に関する分科会					
委員長	鈴置保雄	副委員長	山地憲治	幹事	疇地宏、秋元圭吾
主な活動	審議内容				
	多岐にわたるエネルギーと科学技術に関する検討課題のうち、主に、地球温暖化対応の視点からのエネルギー対策・政策検討、次世代再生可能エネルギー導入検討、熱エネルギー利用の社会実装基盤、ハイパワーレーザによる高エネルギー密度科学に関して小委員会を立ち上げ、審議を行なっている。				
	意思の表出 (※見込み含む)				
	今期の活動の結果を提言、報告等にまとめる予定である				
	開催シンポジウム等				
<ul style="list-style-type: none"> ・平成31年1月23-24日：日米シンポジウム「ハイパワーレーザによる高エネルギー密度科学技術の展望」（於ワシントンDC） ・平成31年3月8日：公開シンポジウム「再生可能エネルギー一次段階の導入に向けて」 ・令和元年6月6日：公開シンポジウム「長期の温室効果ガス大幅排出削減 					

	に向けたイノベーションの役割と課題」
開催状況	分科会（平成 31 年 3 月 8 日）必要に応じメール審議を行う予定。 メール審議 1 回（意見交換 12/12-19・審議 12/19-25）
今後の課題等	上記課題についての審議に基づき、意思の表出について検討する。

総合工学委員会・機械工学委員会合同 工学システムに関する安全・安心・リスク検討分科会					
委員長	須田義大	副委員長	野口和彦	幹事	水野毅、宮崎恵子
主な活動	審議内容				
	安全目標の検討小委員会、老朽および遺棄化学兵器の廃棄に係るリスク評価とリスク管理に関する検討小委員会、工学システムに対する安心感等検討小委員会にて審議を深めるとともに、分科会において、医薬品の安全及び振興技術に関する話題提供と審議を行った。また、安全工学シンポジウム 2019 でのパネルディスカッション（以下、PD という）、OS 等を企画し、積極的に参加した。				
	意思の表出（※見込み含む）				
	2019 年 9 月 20 日に、報告「老朽・遺棄化学兵器廃棄の安全と環境の保全に向けて」を公表。安全目標の検討小委員会が今期末に提言をまとめる予定。				
	開催シンポジウム等 安全工学シンポジウム 2018 にて、「工学システムの社会安全目標の実用化に向けて」「遺棄化学兵器の廃棄に係るリスク評価・管理」等の PD、OS 等を開催				
開催状況	分科会 3 回（2018 年 9 月 12 日、2019 年 5 月 27 日、2019 年 3 月メール審議）				
今後の課題等	各小委員会の活動及び分科会での話題提供を踏まえ、審議を深めていく。				

基礎医学委員会・総合工学委員会合同 放射線・放射能の利用に伴う課題検討分科会					
委員長	柴田徳思	副委員長	遠藤啓吾	幹事	中嶋英雄、多湖正夫
主な活動	審議内容				
	<ul style="list-style-type: none"> ・この間分科会は開催なし。 ・ワーキンググループで検討の結果、放射性医薬品用 RI は短寿命であり、減衰待ち後のクリアランス及び Mo-99 の国産化に関する提言を出すという提案及び核医学分野から大型計画を提案する方向が出され、分科会に諮ることとした。 				
	意思の表出（※見込み含む）				
	今後の検討により表出する可能性がある。				

	開催シンポジウム等
	予定なし。
開催状況	委員会の開催：この間分科会の開催なし。 ワーキンググループの開催：第1回平成30年10月1日、第2回平成30年11月6日、第3回令和元年6月19日
今後の課題等	第3回分科会で、第24期の提言あるいは第25期の大型計画の提案について審議の予定。

総合工学委員会・機械工学委員会合同 計算科学シミュレーションと工学設計分科会					
委員長	越塚誠一	副委員長	吉村忍	幹事	金田千穂子 松尾亜紀子
主な活動	審議内容				
	<ul style="list-style-type: none"> ・本分科会は、第2回会合がメール審議として平成30年10月10日（水）～15日（月）に、第3回会合が平成30年12月12日に開催された。 ・大型学術研究の計画「ソサエティ5.0を支える人と人工物システム・サービスの計算情報科学基盤創成」を提出した。 ・計算力学小委員会は、第2～3回会合が平成30年12月12日、令和元年6月21日に開催された。 ・心と脳など新しい領域検討小委員会は、第5～6回会合が平成30年10月22日、11月30日に開催された。 ・計算音響学小委員会は、第2回会合が平成30年11月5日に開催された。第3回会合を6～7月に予定。 ・計算科学を基盤とした産業競争力強化の検討小委員会は、第3～7回会合が平成30年11月9日、平成31年1月10日、2月14日、4月11日、令和元年7月29日に開催された。 				
	意思の表出（※見込み含む）				
開催状況	開催シンポジウム等				
	<ul style="list-style-type: none"> ・第8回計算力学シンポジウム（平成30年12月12日、日本学術会議講堂） ・公開シンポジウム「冷たいメカニズムから心優しいメカトロロジーへ～超高齢化社会とスマート・テクノロジー～」（平成31年1月25日、日本学術会議講堂） ・公開シンポジウム「AI時代のもの・コトづくりに向けた新たな計算科学活口における課題と期待」（平成31年2月14日、日本学術会議講堂） 				
	平成30年12月12日に会合を開催した。今年度についても12月頃に1回開催の予定。				

今後の課題等	
--------	--

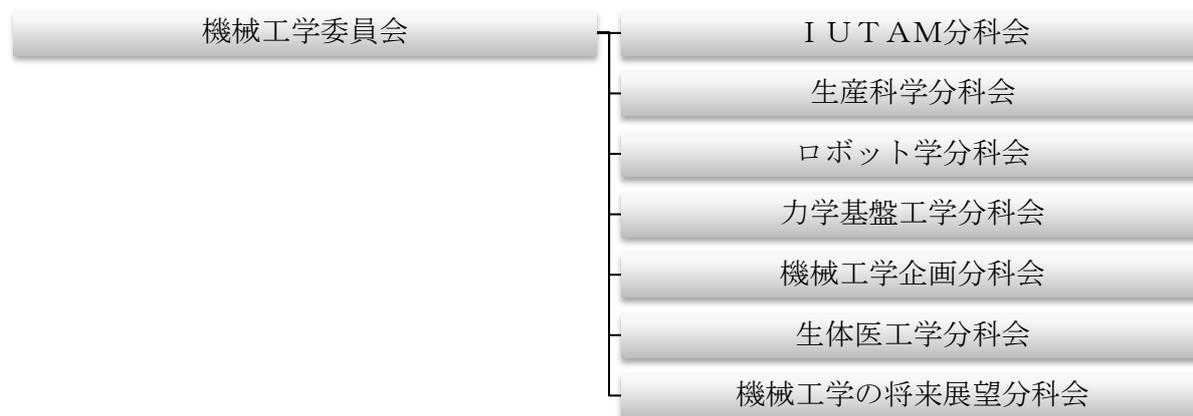
総合工学委員会 原子力安全に関する分科会					
委員長	矢川 元基	副委員長	柘植 綾夫	幹事	越塚 誠一、野口和彦
主な活動	審議内容				
	東京電力福島第一原子力発電所において発生した事故事象の検討を引き続きおこなった。特に津波についての学術的課題について審議した。また、我が国の研究用原子炉の在り方について議論した。				
	意思の表出（※見込み含む）				
	提言「研究と産業に不可欠な中性子の供給と研究用原子炉の在り方」（H30.8.16）、報告「我が国の原子力発電所の津波対策＜東京電力福島第一発電所事故前の津波対応から得られた課題＞」（R1.5.21）をまとめた。				
	開催シンポジウム等				
	原子力総合シンポジウム 2018（H30.10.22）を開催した。				
開催状況	H30. 10. 22、H31. 4. 11、R1. 7. 24 にそれぞれ分科会を開催した。				
今後の課題等	これまで福島事故事象について多くの時間を割いて審議を行った。前期からの審議内容を含めて、順次、提言や報告（和文、英文）として公開する予定である。				

経営学委員会・総合工学委員会合同 サービス学分科会					
委員長	西尾チヅル	副委員長	新 誠一	幹事	戸谷圭子、平田貞代
主な活動	審議内容				
	本分科会では、「社会におけるサービス学の役割とその振興に関する小委員会」（以下、社会性小委員会）と「サービス学の教育実装に関する小委員会」（以下、教育実装小委員会）の2つの小委員会を設置し、社会や経済が抱えるサービスに関わる様々な課題に対するサービス学の役割と学問的体系化、および、その教育・普及方法に関する審議を行った。				
	意思の表出（※見込み含む）				
	サービス学の役割と教育方法に関する提言を次年度までに行う。				
	開催シンポジウム等				
	なし				

開催状況	<ul style="list-style-type: none"> ・社会性小委員会開催状況：第3回(平成30年12月6日)、第4回(平成31年3月4日)、第5回(令和元年5月8日)、第6回(令和元年7月16日)、第7回(令和元年8月27日) ・教育実装小委員会開催状況：第3回(平成30年10月24日)、第4回(平成31年1月29日)、第5回(平成31年3月27日)、第6回(令和元年5月8日) ・分科会：第3回分科会を令和元年10月18日に開催予定
今後の課題等	2つの小委員会の議論を統合して、サービス学の社会的役割と教育方法に関するシンポジウムを開催し、その内容を踏まえて提言をまとめる。

総合工学委員会 科学的知見の創出に資する可視化分科会					
委員長	小山田耕二	副委員長	萩原一郎	幹事	大倉典子、明和政子
主な活動	審議内容				
	本分科会において設置した2つの小委員会が中心となり、第23期に公表した提言「科学的知見の創出に資する可視化に向けて」の実践について活動を行っている。具体的には、新パラダイム小委員会では、先端的な領域開拓、ICT文理融合では、領域横断的問題解決に資する可視化技術についての議論を深めている。また、提言「社会課題に立ち向かう『総合工学』の強化推進」を咀嚼し、可視化技術の観点で活動を行っている。具体的には、学会会議が公表する提言を俯瞰するための可視化技術についての議論と実践を行った。さらに、22期、23期に作成したマスタープランをベースとして、マスタープラン2020「科学的知見の創出に資する可視化研究の推進」を作成した。				
	意思の表出（※見込み含む）				
	23期に作成した提言を各小委員会で咀嚼して、具体的な展開方法について審議した後、その結果を提言としてまとめることを検討している。				
	開催シンポジウム等				
公開シンポジウム「科学的知見の創出に資する可視化：日本発の可視化研究ブレイクスルーに向けて」平成30年12月15日、公開シンポジウム「科学的知見の創出に資する可視化(2)：「新しい可視化パラダイム」令和1年7月13日					
開催状況	第2回、第3回を、それぞれ、平成30年12月15日、令和1年7月13日に開催した。				
今後の課題等	1)23期提言の具体的な実践法の審議、2)日本ならではの可視化研究に関する学術の大型研究計画の提案、3)提言「社会課題に立ち向かう『総合工学』の強化推進」に資する可視化技術の検討等を実施している。				

⑦機械工学委員会



機械工学委員会					
委員長	藤井孝藏	副委員長	厨川常元	幹事	浅間一 菱田公一
主な活動	審議内容				
	<p>24期における機械工学関連分野の重点的課題について議論を進めている。まず、大型研究計画に関して、関連学協会との連携による十分な情報交換を踏まえた上でマスタープランへの提案を積極的に進めた。また、「機械工学の将来展望分科会」を中心に機械工学の将来に関する議論を進めた。機械工学委員会を開催し、各分科会の議論状況の報告、機械工学の将来に関する意見交換を実施した。マスタープランへの提案については、同日午後開催の機械工学シンポジウムで議論を深めた。これらを踏まえ、機械工学を基盤とした関連分野の体系を調査し、機械工学のあり方とともに強化と発展を促すための方策の議論を進めている。</p>				
	意思の表出（※見込み含む）				
	今期中に機械工学の将来展望を踏まえた提言の取りまとめを予定している。				
	開催シンポジウム等				
<p>「第19回キャビテーションに関するシンポジウム」H30/10/18-19 「第9回構造物の安全性・信頼性に関する国内シンポジウム」R1/10/23-25（予定） （機械工学の将来展望分科会主催）「機械工学シンポジウム『機械工学の将来展望—イノベーション創出にむけた次の一手—』 R1/4/16 （力学基盤工学分科会主催）「第4回理論応用力学シンポジウム」R1/1/23 また「第5回理論応用力学シンポジウム」2019/12/9（予定）</p>					
開催状況	第3回 H31/4/16				
今後の課題等	第4回を年度内に開催したいが、予算的にかなり難しく苦慮している。				

機械工学委員会・土木工学・建築学委員会合同 IUTAM 分科会					
委員長	菱田 公一	副委員長	金田 行雄	幹事	前川 宏一・亀田 正治
主な活動	審議内容				
	国際理論応用力学連合（IUTAM）への対応、理論応用力学講演会に関する進め方を議論・検討。 ・IUTAM への対応：2024 年（令和 6 年）コンGRES（ICTAM）の東京招致に向けて、招致の母体となる日本工学会理論応用力学コンソーシアムを設立し、東京観光財団が提供する誘致・開催助成制度への応募を行った。 ・理論応用力学講演会：主催を関連学協会とするよう改め、土木学会主催による第 65 回講演会を開催した。				
	意思の表出（※見込み含む）				
	なし				
	開催シンポジウム等				
	第 65 回理論応用力学講演会（令和元年 6 月 28 日（金）～30 日（日）、北海道大学工学部）				
開催状況	IUTAM 分科会：なし，理論応用力学企画小委員会：1 回（令和元年 6 月 29 日（第 3 回））				
今後の課題等	ICTAM2024 の東京への招致準備を進める				

機械工学委員会 生産科学分科会					
委員長	厨川常元	副委員長	光石 衛	幹事	新野秀憲
主な活動	審議内容				
	ピコテクノロジー基盤ものづくりの動向調査と方向性の取纏め、並びに高付加価値製造技術研究をはじめとする 21 世紀生産科学をグローバルな視点からの体系化に関して検討をした。また大型マスタープラン申請のための準備をした。				
	意思の表出（※見込み含む）				
	21 世紀生産科学の課題と動向(予定)				
	開催シンポジウム等				
	平成 31 年度に審議内容に関する公開シンポジウムを企画中。				
開催状況	愛 3 回 平成 30 年 10 月 31 日 第 4 回 平成 31 年 1 月 28 日				
今後の課題等	次世代のものづくり技術に関して、国内外関連学協会並びに産業界との連携が不可欠。				

機械工学委員会 ロボット学分科会					
委員長	川村貞夫	副委員長	金子 真	幹事	荒木雅子
主な活動	審議内容				
	システムインテグレーションの科学としての視点や AI/IoT との関係を踏まえてロボットがもたらす未来について議論した。さらに、ロボット学の人材育成のあるべき姿についても議論した。				
	意思の表出（※見込み含む）				
	今後のロボット学の構築とロボットの実利用について意思の表出を予定する。				
	開催シンポジウム等				
	公開シンポジウム「ロボットのシステムインテグレーション科学を目指して」 平成 30 年 12 月 13 日（木）13：30～17：00 大阪工業大学梅田キャンパス				
開催状況	平成 30 年 12 月 13 日 12：00～13：30 ロボット学分科会開催				
今後の課題等	令和元年 10 月に分科会開催予定				

総合工学委員会・機械工学委員会合同 力学基盤工学分科会					
委員長	岸本喜久雄	副委員長	高田 保之	幹事	松尾亜紀子 荒木 稚子
主な活動	審議内容				
	<ul style="list-style-type: none"> ・力学分野の活性化のための方策について ・理論応用力学シンポジウムの開催について ・理論応用力学コンソーシアムの設置について ・国際会議の日本誘致について ・マスタープランについて 				
	意思の表出（※見込み含む）				
	なし				
	開催シンポジウム等				
	<ul style="list-style-type: none"> ・第 4 回理論応用力学シンポジウムの開催（平成 31 年 1 月 23 日） http://www.scj.go.jp/ja/event/pdf2/271-s-3-2.pdf ・第 5 回理論応用力学シンポジウムの開催に向けて準備を進めている。 				
開催状況	1 回開催（平成 31 年 1 月 23 日）力学の深化・展開小委員会と合同開催 次回は令和元年 12 月 9 日に開催予定				
今後の課題等	<ul style="list-style-type: none"> ・力学を基盤とする工学の深化・展開に関する情報交換の場の形成方策 ・関連する工学分野の体系化ならびに分野の強化・発展を促すための方策 				

機械工学委員会 機械工学企画分科会					
-------------------	--	--	--	--	--

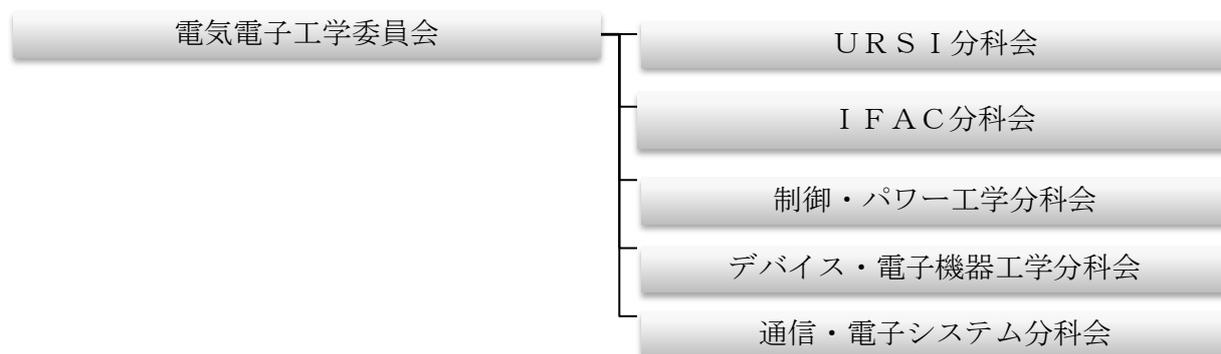
委員長	藤井孝藏	副委員長	厨川常元	幹事	浅間一 菱田公一
主な活動	審議内容				
	本分科会は、機械工学の学術分野を俯瞰しつつ、機械工学委員会及び関連する分科会、シンポジウムなどの企画行事などに関する事項を審議、決定すると共に、委員会および所属分科会が関わる諸活動を推進する。今期は、社会における機械工学の位置づけと価値を明確にし、社会における認識を向上させることを重視している。				
	意思の表出（※見込み含む）				
	開催シンポジウム等				
開催状況	第3回 H30/10/4、第4回 H31/4/24				
今後の課題等	予算的な制約から総会時などを除いた開催が難しい状況				

機械工学委員会 生体医工学分科会					
委員長	但野 茂	副委員長	厨川 常元	幹事	和田 成生
主な活動	審議内容				
	我が国の生体医工学分野に関する現状と課題、今後の振興策について、討論、意見交換を実施した。医学と工学の学術界の連携と産業界の連携、ならびにそのための人材育成をテーマとしたシンポジウムを企画し、年度内に実施することとした。また、医工連携の研究に係る臨床研究法の問題点について、今後の分科会で取り上げていくこととした。				
	意思の表出（※見込み含む）				
	1. 国内外関連学会等の動向、情報交換、連携促進の方策 2. 生体医工学の教育・研究体制の現状と課題 3. 研究開発から実用化に至る過程での検討事項				
	開催シンポジウム等				
分科会主催のシンポジウムを日本学術会議で開催計画。					
開催状況	第24期第2回分科会：令和元年6月4日開催				
今後の課題等	生体医工学は医学と工学の分野横断的な学術分野のため、国内外関連学協会の連携と相互協力が課題である。				

機械工学委員会 機械工学の将来展望分科会

委員長	大島まり	副委員長	菱田公一	幹事	塩見淳一郎
主な活動	審議内容				
	<ul style="list-style-type: none"> ・ 機械工学を基盤とした学術分野および産業分野の現状や動向に関するアンケート調査を行い、それに基づき情報交換を行った。 ・ 機械工学および関連分野の体系を調査し、機械工学のあり方とともに強化と発展を促すための方策を議論した。 ・ イノベーションの創出、および社会や国民へのさらなる貢献を目指した機械工学の将来展望に関して検討した。 				
	意思の表出（※見込み含む）				
	機械工学の将来展望を踏まえた研究に関してアンケート調査をまとめ、マスタープランへの積極的な公募を促した。 今後は、アンケート調査の結果やシンポジウムの議論に基づき、提言の取りまとめを目指す予定である。				
	開催シンポジウム等				
	機械工学の将来展望に関するシンポジウム 「イノベーション創出にむけた次の一手」を開催（平成 31 年 4 月 16 日） 開催				
開催状況	令和元年 10 月もしくは 11 月に開催予定				
今後の課題等	アンケートやヒアリングによる調査、シンポジウムなどを通して得られた結果をまとめる。また、関連学協会と協力するかたちで現状や動向の情報を収集し、これらの情報も併せて解析することで、実効性の伴った提言としてまとめていく。				

⑳電気電子工学委員会



電気電子工学委員会					
委員長	大西公平	副委員長	波多野睦子	幹事	中野義昭、大柴小枝子
主な活動	審議内容				
	<ul style="list-style-type: none"> ・ 今期の活動及び意志の表出方法について意見交換を行い、学協会連携や学術誌のオープン化に関して議論を行った ・ 電気電子工学分野における様々な課題と解決に関するシンポジウムを開催し社会発信に務める 				
	意思の表出（※見込み含む）				
	<ul style="list-style-type: none"> ・ 上記に関連して、シンポジウムを開催し、報告にまとめることを予定している。 				
	開催シンポジウム等				
1. 電気エネルギーの未来を考える ～ブラックアウトの現象、影響と提言～ 平成 31 年 1 月 17 日（木） 13:00～17:15、日本学術会議講堂 2. That's interesting: ICT 研究はどこに向かうのか 平成 31 年 3 月 11 日（月） 13:30～17:30、日本学術会議講堂 3. 21 世紀社会における日本のエレクトロニクスを支える博士人材育成について 平成 31 年 3 月 21 日（祝/木） 13:00～17:00、早稲田大学 西早稲田キャンパス					
開催状況	平成 31 年 1 月 17 日 令和元年 7 月 19 日				
今後の課題等	・ 学協会との連携を強める機会を多く作っていくことが新たな課題である。				

電気電子工学委員会 URSI 分科会					
委員長	八木谷 聡	副委員長		幹事	大貫 進一郎
主な活動	審議内容				

	<ul style="list-style-type: none"> ・第24期学術の大型研究計画（マスタープラン2020）へのURSI分科会からの申請について ・URSI 100周年記念誌について ・2023（令和5）年に札幌で開催予定の「第34回URSI総会」（URSI GASS 2023）の準備について。
	意思の表出（※見込み含む）
	なし。
	開催シンポジウム等
	なし。
開催状況	平成31年4月26日
今後の課題等	<ul style="list-style-type: none"> ・2019（令和元）年9月に開催予定の「2019年URSI日本電波科学会議」（URSI-JRSM 2019）の準備・運営を支援。 ・2020（令和2）年8月にイタリア・ローマで開催予定の第33回URSI総会への対応を審議。 ・URSI 100周年記念シンポジウムの準備、運営を審議。

電気電子工学委員会 制御・パワー工学分科会					
委員長	日高邦彦	副委員長	大西公平	幹事	金子 真
主な活動	審議内容				
	<ul style="list-style-type: none"> ・社会基盤としての制御・パワー工学の在り方について検討。 ・安全安心スマート社会の実現に向けたパワー・制御システムのセキュリティマネージメントの方向性および実現可能性を検討。 				
	意思の表出（※見込み含む）				
	開催シンポジウム等				
平成31年1月17日の公開シンポジウム「電気エネルギーの未来を考える〜ブラックアウトの現象、影響と提言」（日本学術会議第三部 電気電子工学委員会主催）について企画開催運営に協力。					
開催状況	令和元年7月19日				
今後の課題等	パワー・制御システムのセキュリティマネージメントの方向性および実現可能性について、記録とするか検討している。限られた会議予算の中で効率よく審議を進める方法を検討していきたい。				

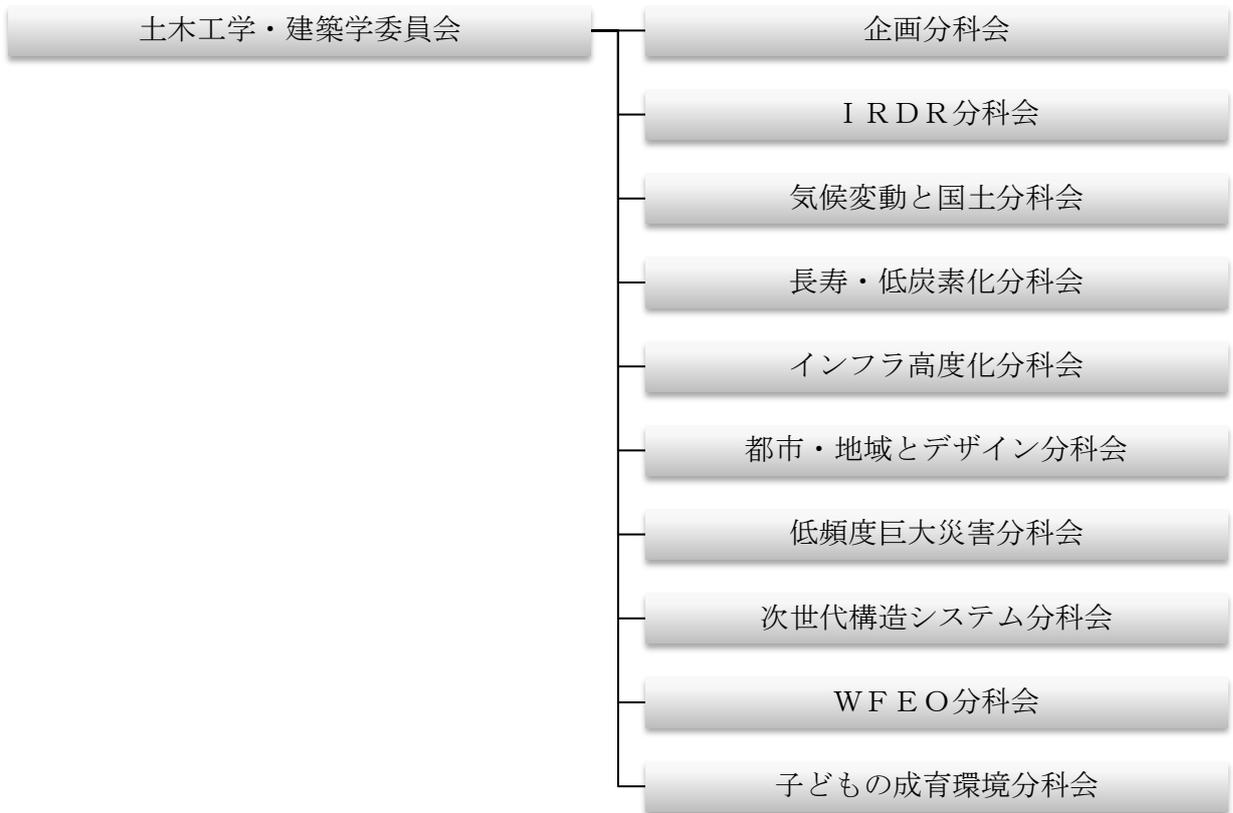
電気電子工学委員会 デバイス・電子機器工学分科会					
委員長	中野 義昭	副委員長	川原田 洋	幹事	森 勇介, 大橋 弘美
主な活動	審議内容				

	<p>-第 24 期分科会活動のアウトプットの検討。</p> <p>-デバイス・電子機器工学分野における博士人材育成にかかる公開シンポジウムの企画立案と実施。</p> <p>-大型研究計画に関するマスタープラン公募への対応</p>
	意思の表出（※見込み含む）
	シンポジウムを開催し、報告にまとめることを予定している。
	開催シンポジウム等
	公開シンポジウム「21 世紀社会における日本のエレクトロニクスを支える博士人材育成」、平成 31 年 3 月 21 日（祝/木） 13:00～17:00, 早稲田大学 西早稲田キャンパス
開催状況	第 2 回分科会（平成 30 年 11 月 21 日）、第 3 回分科会（平成 31 年 3 月 21 日）
今後の課題等	公開シンポジウムの議論を反映させた報告をまとめる。令和 2 年に新たに公開シンポジウムを開催すべく準備する。

電気電子工学委員会 通信・電子システム分科会					
委員長	仙石正和	副委員長	森川博之	幹事	中野美由紀 佐古和恵
主な活動	<p>審議内容</p> <ul style="list-style-type: none"> ・第二回目の分科会で、通信・電子システム（ICT：情報通信技術）分野の課題、将来の方向性について議論され、小委員会の設立が承認された。 ・「ICT 分野の魅力・興味基軸の分析と創造小委員会」が学術会議幹事会で承認され、小委員会を開催して、委員長（森川博之）、幹事（瀬戸りか、成末義哲）を選出した。 ・小委員会で公開シンポジウムの「That's interesting: ICT 研究はどこに向かうのか」の原案を作成し、分科会で審議、最終決定して、平成 31 年 3 月に開催することを決定した。 ・通信・電子システム（ICT：情報通信技術）分野の課題、将来の方向性について、このシンポジウムなどを行いながら議論している。 <p>意思の表出（※見込み含む）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・分科会、小委員会で通信・電子システム（ICT：情報通信技術）分野の課題、将来の方向性について意思の表出に向けて、議論している。 <p>開催シンポジウム等</p> <p>平成 31 年 3 月 11 日に、学術会議の講堂において、公開シンポジウム「That's interesting: ICT 研究はどこに向かうのか」を開催して、約 300 名の参加を得た。</p>				

開催状況	分科会：平成 30 年 12 月 5 日（水）、平成 31 年 3 月 11 日（月）、令和元年 7 月 5 日（金） 小委員会：平成 30 年 10 月 30 日（火）、平成 31 年 3 月 11 日（月）、令和元年 5 月 24 日（金）、令和元年 7 月 5 日（金）
今後の課題等	

㊹土木工学・建築学委員会



土木工学・建築学委員会					
委員長	米田雅子	副委員長	前川宏一	幹事	小林潔司、田辺新一
主な活動	審議内容				
	「持続可能で豊かな社会」の実現を目標に、「安全・安心な社会」、「インフラ健全化社会」、「健康・文化向上社会」、「環境共生社会」、「低炭素・循環型社会」、「国際貢献」を重点テーマとして、学際連携の推進も含め、11の分科会の活動を行っている。令和元年5月20日に土木工学・建築学分野の会員と連携会員が集まる全体会を開催し、相互理解を深め、活動を活発化させた。全体会の前後で分科会を集中開催した。委員会として免震・制振データ改ざん問題に取り組んだ。				
	意思の表出（※見込み含む）				
	免震・制振データ改ざん問題に取り組み、平成31年1月15日にシンポジウムを開催し、平成31年4月16日に提言「免震・制振データ改ざん問題と信頼回復への対策」を発表した。				
主な活動	開催シンポジウム等				
	平成31年3月12日に学術フォーラム「平成30年夏に複合的に連続発生した自然災害と学会調査報告」、平成31年4月20日21日第65回構造工学シンポジウム、令和元年5月21日第32回環境工学連合講演会を開催した。				

開催状況	第7回 平成30年11月2日、第8回 平成31年2月21日、第9回 令和元年5月30日全体会（前後で分科会を集中開催）、第10回 令和元年8月9日
今後の課題等	実効性のある提言活動を展開すること

土木工学・建築学委員会 企画分科会					
委員長	米田雅子	副委員長	前川宏一	幹事	小林潔司、田辺新一
主な活動	審議内容				
	本分科会は、土木工学・建築学の学術分野を俯瞰しつつ、学際連携の推進も含め、土木工学・建築学委員会および関連する分科会、小委員会、シンポジウム等に関する諸活動を円滑に推進することを目的としている。環境工学連合小委員会を設置し、環境工学に関わる21学会との学際連携を進めている。令和元年5月20日に土木工学・建築学分野の会員と連携会員が集まる全体会を開催することに寄与し、分科会間の相互理解を進めた。				
	意思の表出（※見込み含む）				
	開催シンポジウム等				
	令和元年5月21日第32回環境工学連合講演会を開催した。				
開催状況					
今後の課題等	学際連携と土木工学・建築学分野の分科会の相互理解を進めること				

土木工学・建築学委員会 IRDR 分科会					
委員長	寶 馨	副委員長	林 春男	幹事	多々納裕一、小森大輔
主な活動	審議内容				
	<ol style="list-style-type: none"> 1. IRDR 科学委員会との密接な連携により、IRDR 日本国内委員会(IRDR-Japan)の役割を果たし、わが国の IRDR に関する学術の振興を図る。 2. 種々の災害事象を題材として推進される研究活動のレビューを国際的な観点から行い、我が国の IRDR 研究の visibility を高める方策を検討する。 3. SFDRR、SDGs、パリ協定に関する国際的動向をモニターし、防災関連分野において日本学術会議からの貢献の方策を審議する。 <p>●大型研究計画を取りまとめ、提出した。（2019年3月）。</p>				
	意思の表出（※見込み含む）				

	地球惑星科学委員会地球・人間圏分科会と共同で提言「地球規模に災害が激化する時代に社会の脆弱化をどう防ぐか（仮）」を作成する（現在ドラフト中）。
	開催シンポジウム等
	防災推進国民大会：「災害からあなたを守る科学技術との対話」平成30年10月13日（東京）共催：科学技術を生かした防災・減災政策の国際的展開に関する検討委員会 日本学術会議公開シンポジウム「繰り返される災害—少子高齢化の進む地域で生き抜くということ—」（2019年4月5日13-17時）共催：地球・人間圏分科会 防災推進国民大会：「大規模災害からあなたを守る科学技術との対話」令和元年10月19～20日（名古屋）共催：科学技術を生かした防災・減災政策の国際的展開に関する検討委員会
開催状況	第5回 IRDR 分科会 メール審議：平成30年11月6日（火） 第6回 IRDR 分科会 平成30年12月28日（金） 第7回 IRDR 分科会 メール審議：平成31年3月27日（水） 第8回 IRDR 分科会 平成31年4月18日（木） 第9回 IRDR 分科会 未定
今後の課題等	1. 科学研究費（新学術領域）などへの応募 2. Annual Report のとりまとめ 3. IRDR-Japan ホームページの開設 4. 地球惑星科学委員会地球・人間圏分科会と共同で提言を作成する 5. IRDR 科学委員会の動向を踏まえ、2020年までのIRDRの活動をフォローし、日本からの研究成果の「発信」を強化していく（Annual Report の発行）。また、2021年から2030年までの構想について、IRDR-Japan からの提案策定を行う。

土木工学・建築学委員会 気候変動と国土分科会					
委員長	望月常好	副委員長	道奥康治	幹事	戸田圭一 池内幸司
主な活動	審議内容				
	海面上昇に関する研究の現状、水防法に基づき各地域に設置された大規模氾濫減災協議会の活動を支援するための研究課題の抽出状況、洪水・土砂災害への建築分野の取り組みの現状、西日本豪雨等を踏まえた水災害対策に関する検討状況、被災地域における復興支援の具体例など、気候変動と国土に係る多様なテーマについて審議するとともに、今後のとりまとめの方向性について議論を開始した。				
	意思の表出（※見込み含む）				

	開催シンポジウム等
開催状況	平成30年12月4日、平成31年3月27日、令和元年5月20日
今後の課題等	第23期における活動との継続性を踏まえつつ、重大な社会的影響を伴うにもかかわらず今まで見過ごされてきた課題などについて更に審議を深め、提言をとりまとめる予定である。

環境学委員会・土木工学・建築学委員会合同 長寿・低炭素化分科会					
委員長	田辺新一	副委員長	伊香賀俊治	幹事	下田吉之 渡邊朗子
主な活動	審議内容				
	長寿化、健康寿命、人口減少、世帯構成などに関するこれまでの研究をレビューし、民生部門のエネルギー消費に及ぼす影響を明らかにすることとなった。持田委員、福井委員、伊香賀委員、下田委員から話題提供が行われた。それらを踏まえて、健康で長寿な脱炭素社会を実現する方策に関して中間とりまとめ作業を行っている。				
	意思の表出（※見込み含む）				
	なし				
	開催シンポジウム等				
なし					
開催状況	平成30年11月30日、平成31年2月18日、令和元年5月21日、令和元年8月9日				
今後の課題等	長寿社会における住まい方と影響に関して中間とりまとめを行う。				

土木工学・建築学委員会 インフラ高度化分科会					
委員長	小林潔司	副委員長	天野玲子	幹事	那須清吾 高橋良和
主な活動	審議内容				
	最新の先端技術の成果を取り入れたスマートなインフラの整備、大規模修繕・更新戦略は、インフラシステムの高度化を通じて国土、都市・地域の再生・更新の先導役を果たすことにつながる。分科会では、インフラの新規整備、				

	大規模修繕・更新を通じたインフラシステムの高度化戦略を議論する。このようなインフラ高度化戦略には、アセットマネジメント技術の高度化、低炭素社会・価値多様化社会に対応しうる新インフラ技術の実装、インフラマネジメントの高度化のための制度基盤の発展などが含まれる。
	意思の表出（※見込み含む）
	審議内容に関する出版・シンポジウム開催を企画している。
	開催シンポジウム等
	企画中である。
開催状況	過去6回分科会を開催し（第24期2年目は平成30年11月27日（第3回）、平成31年3月6日（第4回）、令和元年5月21日（第5回）、令和元年8月9日（第6回））、委員各位による話題提供を踏まえた議論と出版にむけた論点整理を行った
今後の課題等	出版に関するとりまとめ

土木工学・建築学委員会 都市・地域とデザイン分科会					
委員長	内藤 廣	副委員長	浅見 泰司	幹事	赤松佳珠子、山本佳世子
主な活動	審議内容				
	1. 「都市・地域とデザイン」の基本的な考え方 2. 次世代のための「都市・地域のデザイン」構想 3. 制度設計や資源配分のあり方 以上に係る審議に関すること				
	意思の表出（※見込み含む）				
	なし				
	開催シンポジウム等 なし				
開催状況	平成30年11月8日、平成31年1月31日、令和元年5月21日、令和元年8月6日				
今後の課題等	初年度の広義のデザインの状況把握から、本年度は建築・都市・土木分野でのデザインの在り方に集約し、「都市・地域とデザイン」の基本的な考え方、次世代のためのデザイン的思考の在り方を議論し、まとめる。最終年度は、制度設計や資源配分の在り方を方法論として提示したい。				

土木工学・建築学委員会 低頻度巨大災害分科会

委員長	寶 馨	副委員長	天野玲子	幹事	山本佳代子 西嶋一欽
主な活動	審議内容				
	<p>近年、大規模河川氾濫、南海トラフ地震津波、首都直下地震など、低頻度であっても巨大な災害のリスクに我が国はさらされている。海外でも、洪水、高潮災害や地震災害など、巨大災害のリスクがある。これらは、地域に壊滅的な被害をもたらすばかりではなく、国家規模での影響も甚大である。そこで、このような低頻度巨大災害の様相を整理する。</p> <p>さらに、頻度の高い災害も含めた防災・減災システムについて議論し、その枠組みの中で、低頻度巨大災害の減災に資するハード対策に必要な条件やソフト対策における課題等について整理する。</p> <p>(審議事項)</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 低頻度巨大災害をもたらす災害とその様相の整理 2. 高頻度災害から低頻度巨大災害を含む防災・減災システムのあり方 3. 防災・減災対策における課題 <p>に係る審議に関すること</p> <p>●提言を取りまとめるとともに、国民の注意を喚起するような書物を出版する。</p>				
	意思の表出 (※見込み含む)				
	低頻度巨大災害に関する提言を取りまとめる。				
	開催シンポジウム等				
	防災学術連携体の学術シンポジウムを共催する (2020年3月頃)				
開催状況	第3回 (2019/01/07, 日本学術会議)				
	話題提供: 目黒委員 地震保険の現状				
	各委員からの提言				
	第4回 (2019/03/28, 日本学術会議)				
	話題提供: 小松委員 水災害, ダムと網場の効果 提言骨子の方向性の審議				
第5回 (2019/05/20, 日本学術会議) 提言骨子案の審議					
第6回 (2019/秋) 未定					
幹事会第1回 (2018/12/17, 日本学術会議)					
幹事会第2回 (2019/02/04, 日本学術会議)					
幹事会第3回 (2019/04/26, 京大東京オフィス)					
今後の課題等	6. 提言のとりまとめ				
	7. 書物の企画、執筆、出版				

土木工学・建築学委員会 次世代構造システム分科会					
委員長	前川宏一	副委員長	依田照彦	幹事	小野 潔・藤田香織
主な活動	審議内容				
	1) 階層的な構造システム（物質、材料、部材構造、環境）に関わる技術の横型連結と情報技術, 2) 既存構造システムの総合診断を軸とした技術・知見の集成, 3) 建築物・インフラ構造システムの更新再生, 以上を背景に 4) 少子高齢化時代での技術認証システムについて議論した。交通基盤に関わる技術認証について、現行の認証システムの問題点の分析を進めた。				
	意思の表出（※見込み含む）				
	シンポジウムの開催、その後の意思の表出を見込んでいる。本年度は予定無し。				
	開催シンポジウム等				
	インフラ施設の設計施工、維持管理に関わる技術認証に関するシンポジウム（案）を今年度で開催する方向で検討を継続中。				
開催状況	分科会 令和元年 5 月 20 日 平成 31 年 3 月 19 日 幹事会 平成 30 年 12 月 25 日				
今後の課題等	材料・構造技術の認証システムへの提言に向けた準備（シンポジウムを含む）				

総合工学委員会・土木工学・建築学委員会合同 WFEO 分科会					
委員長	塚原健一	副委員長	為近恵美	幹事	山本佳世子
主な活動	審議内容				
	WECC2015の開催を受け、引き続き工学分野における我が国の国際的貢献度を高めるため、学術会議の関連委員会や関連学協会と協力して、WFEO（世界工学団体連盟）活動ならびにWFEOが連携する各種の国際的／地域的活動、行事に積極的に関与、貢献する。				
	意思の表出（※見込み含む）				
	予定無し				
	開催シンポジウム等				
	2019年11月にメルボルンで開催されるWEC2019にて、日本の工学界のSDGsに対する取り組み等について紹介する予定。				
開催状況	2018年3月9日 第1回分科会開催 2019年2月5日 第2回分科会開催				
今後の課題等	WEC2019にて塚原分科会長が国別代表理事に立候補予定。				

心理学・教育学委員会・臨医医学委員会・健康・生活科学委員会・環境学委員会・土木工学・建築学委員会合同 子どもの成育環境分科会					
委員長	木下勇	副委員長	水口雅	幹事	斎尾直子 三輪律江
主な活動	審議内容				
	第四回分科会：教育・保育施設の子どもの成育についての課題 第五回分科会：医療・健康分野から子どもの成育環境の課題 第六回分科会：提言骨子案の検討				
	意思の表出（※見込み含む）				
	子どもの成育空間についての提言を今年度にまとめて来年度初旬に提出予定。（内容は公園、道路、教育・保育施設、医療、住宅や都市・地域環境など。特に子どもの外遊び消滅の危機における次世代の育成の観点から SDGs に向けての提言等）				
	開催シンポジウム等				
	2019年6月1日 13:00-17:00 シンポジウム「どうなる外遊びの未来！？ 社会的介入としての移動式遊び・プレーバス」				
開催状況	第四回分科会会議 2018年10月24日 15:00-17:00 第五回分科会会議 2019年1月16日 14:00-16:00 第六回分科会会議 2019年6月1日 11:00-12:00				
今後の課題等	提言の目次案 タテ割りに記述するのではなくより総合的に記述するように修正。住宅の課題を盛り込むため次回分科会で検討 10月23日開催予定。				

⑩材料工学委員会



材料工学委員会					
委員長	山口 周	副委員長	片岡 一則	幹事	乾 晴行, 筑本 知子
主な活動	審議内容				
	今期のテーマとして設定した(1)大型研究・大型設備, (2)学協会との連携強化, (3)学部および大学院教育の参照基準, (4)材料分野におけるSDGs活動, などについて第4回並びに第5回委員会で審議した。また、これまで組織的な取り組みが行われてこなかった「材料工学分野における大型研究の在り方」について、委員を対象としてアンケート調査を行い、これに基づく議論を進めている。「材料の革新が豊かで持続可能な社会の実現」にどのように貢献できるかという視点で、材料研究の大規模研究の可能性について検討を進めている。				
	意思の表出 (※見込み含む)				
	なし				
	開催シンポジウム等				
なし					
開催状況	24期第4回委員会平成30年11月1日(金) (平成31年2月1日開催を延期)第5回平成31年4月11日(木) 第6回令和元年11月15日(金)開催予定, 第7回令和2年2月1日(金)開催予定				
今後の課題等	大型研究プロジェクトの在り方に関する調査のとりまとめと俯瞰的な議論の推進				

材料工学委員会 バイオマテリアル分科会					
委員長	片岡一則	副委員長	埴隆夫	幹事	岸田晶夫, 中野貴由
主な活動	審議内容				

	主催シンポジウム開催について、マスタープラン 2020 提案について、提言のインパクトレポートについて、SDGs から見た学術会議に対する対応について 意思の表出（※見込み含む）
	マスタープラン 2020 提案（バイオマテリアル国際先導研究拠点の構築）
	開催シンポジウム等
	公開シンポジウム「イノベーションプラットフォームとしてのバイオマテリアル 2018」、平成 30 年 11 月 13 日、神戸国際会議場
開催状況	平成 30 年 10 月 30 日第 2 回、平成 31 年 2 月 1 日第 3 回、平成 31 年 4 月 15 日第 3 回バイオマテリアル分科会、日本学術会議
今後の課題等	次回公開シンポジウムの開催、次回提言の発出

環境学委員会・総合工学委員会・材料工学委員会合同 SDGs のための資源・材料の循環使用検討分科会					
委員長	中村崇	副委員長	所千晴	幹事	岡部徹、安達毅
主な活動	審議内容				
	SDGs に大きくかかわる資源の将来性を天然資源と人工資源の両面から学術的に検討し、資源循環型社会構築に対する資源・材料工学の方向性するために、多角的な観点から議論した。また、そのために必要な公開シンポジウムや提言の方向性について議論した。				
	意思の表出（※見込み含む）				
	過去に提出された資源・材料工学分野における循環に係る提言の展開について議論した後、SDGs 時代におけるその現状と課題を改めて整理し、今期または来期に提言等により発信することを検討している。				
	開催シンポジウム等				
	平成 30 年 7 月 30 日に公開シンポジウム「SDGs 時代における資源開発後の鉱山環境対策のあり方」を実施した。また、令和元年 8 月 5 日に公開シンポジウム「SDGs のための資源・材料の循環使用に関するシンポジウム」を予定している。				
開催状況	平成 31 年 1 月 15 日				
今後の課題等	過去の提言の整理や令和元年 8 月 5 日開催の公開シンポジウムを通して理解を深化させ、新たな提言等により発信する準備を開始する。				

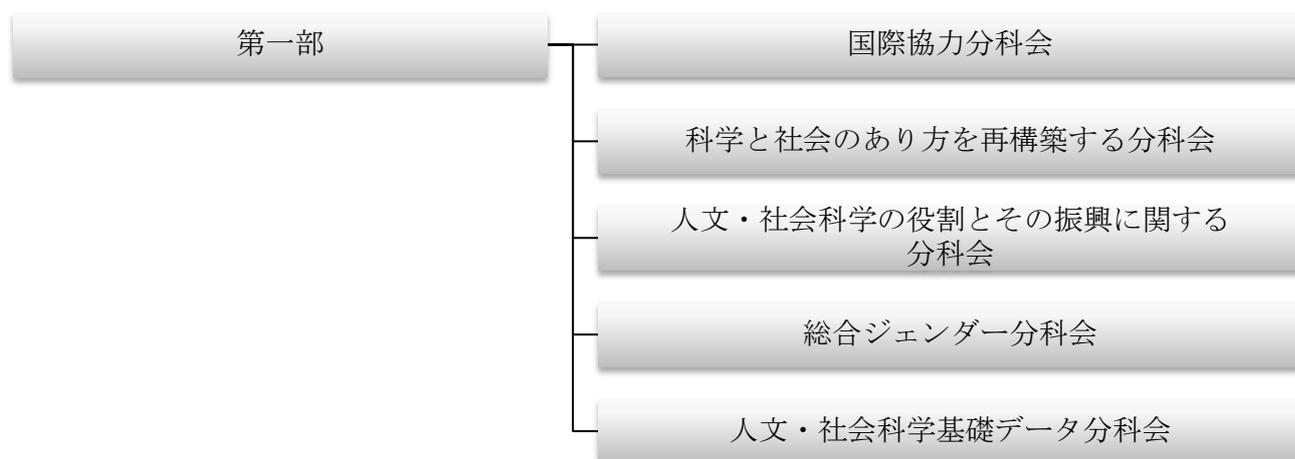
材料工学委員会 材料工学将来展開分科会					
委員長	乾 晴行	副委員長	大貫惣明	幹事	森田一樹、中野裕美
主な活動	審議内容				

	<p>これまでの討議により設定した課題，(1) 大学改革期、入試改革、学科再編にある中で、材料工学のカリキュラムをどのように維持するかなどの材料工学教育の将来を考える，(2) 「大学教育の分野別質保障のための教育課程編成上の参照基準」をさらに大学院教育の参照基準にまで展開する，につき，委員会外の有識者によるセミナー・勉強会を開催して，議論を深めた。</p>
	意思の表出（※見込み含む）
	なし
	開催シンポジウム等
	なし
開催状況	<p>平成 30 年 11 月 1 日 平成 31 年 2 月 1 日（旅費予算枯渇により中止）</p>
今後の課題等	<p>前分科会が昨年度提出した、「材料工学から見たものづくり人材育成の課題と展望」の提言書をもとに，最近，提言されている大学改革（教育、研究、ガバナンス改革）の内容も視野にいたした、材料工学の強みが出る人材教育について、さらに発展させた議論が必要であると考えている。</p>

材料工学委員会 新材料科学検討分科会					
委員長	山口 周	副委員長	細野 秀雄	幹事	河村 能人, 岸本 康夫
主な活動	審議内容				
	<p>第 2 回分科会では，分科会委員による新材料科学に関する最新の話題提供，学協会の国際化に関する取組み，並びに「留学生と国際化問題」に関する外部学識者による情報提供を元にした審議を通じて，学協会の国際化に関する議論を進めた。学協会との連携強化に関しては，日本MR Sが企画している国際シンポジウム (MRM2019) におけるフォーラム共同開催 (Materials Forum 2019) の企画を進めている。前回 IUMRS-ICAM (2017) の一環として開催したフォーラム (Materials Forum2017) とは異なり，今回は国内セッションとして開催することを検討中である。</p>				
	意思の表出（※見込み含む）				
	なし				
	開催シンポジウム等				
<p>一般社団法人 日本MR S学会と共同で，MRM2019（令和元年）において Materials Forum2019 の開催を予定している。</p>					

開催状況	第2回平成30年11月19日(月) 第3回令和元年年11月中旬に開催予定
今後の課題等	Materials Forum 2019の課題と講演者を決定に決定する.

③1部が直接統括する分野別委員会合同分科会



第一部 国際協力分科会					
委員長	町村敬志	副委員長	西條辰義	幹事	栗田禎子・齋藤安彦
主な活動	審議内容				
	<ul style="list-style-type: none"> ・ AASSREC 総会（9月ベトナム・ハノイ）に関し代表派遣を決定するとともに、共通テーマ案を審議し公募に応じた（最終的に日本提案が採用された）。9月23・24日に2名が参加し、報告を行うとともに、総会審議に参加した。 ・ IFSSO 総会（11月トルコ）に関し代表派遣を決定した。 				
	意思の表出（※見込み含む）				
	なし				
	開催シンポジウム等				
<ul style="list-style-type: none"> ・ 2019（令和元）年度の後半に、学術フォーラムまたは公開シンポジウムを開催する方向で準備を進めている。 					
開催状況	平成30年12月20日第3回分科会				
今後の課題等	人文・社会科学領域の国際交流拡大について、統合されたISCへの貢献を含め、引き続き様々な機会をとらえ情報を収集し、検討を進めたい。				

第一部 科学と社会のあり方を再構築する分科会					
委員長	杉田敦	副委員長	島藺進	幹事	兵藤友博・藤垣裕子
主な活動	審議内容				
	緊急時における科学情報の社会への発信に向けて、幹事会付置の危機対応科学情報発信組織準備委員会と連携して審議を進めている。併せて、日学の従来の方針の意思の表出のあり方について、その整合性・妥当性を含めて検討を行っている。				
	意思の表出（※見込み含む）				
日学の意思の表出のあり方について、今後、審議を進め、必要があれば報告等の形で表出する予定。					

	開催シンポジウム等
	特になし
開催状況	平成30年11月16日、令和元年5月14日
今後の課題等	引き続き審議を進める。

第一部 人文・社会科学の役割とその振興に関する分科会					
委員長	橋本伸也	副委員長	溝端佐登史	幹事	木部暢子・本田由紀
主な活動	審議内容				
	地域社会における大学、とりわけ人文・社会科学系学部・研究施設の多面的役割を具体的に明らかにし、今後の振興の道筋を示すための事例検討や政策分析などを行ってきた。あわせて、人文・社会科学分野の研究評価の可能性について、現状把握とあわせて研究評価とは何かという原則、各分野における研究評価に関する考え方の整理などの検討を進めている。				
	意思の表出（※見込み含む）				
	現時点では検討していない				
	開催シンポジウム等				
	平成31年2月3日公開シンポジウム「地域と世界に生きる大学 地域社会における知の創造と発展のために」				
開催状況	平成30年10月5日、平成30年10月28日※メール、平成31年2月3日、平成31年4月26日、令和元年7月30日				
今後の課題等	上記2課題の審議の継続、シンポジウム開催。科学技術基本法についての検討。				

第一部 総合ジェンダー分科会					
委員長	永瀬伸子	副委員長	和泉ちえ	幹事	藤原聖子、窪田幸子
主な活動	審議内容				
	<p>1. 人文社会科学系学協会男女共同参画連絡会 Gender Equality Association for Humanity and Social Sciences (GEAHSS) との連携の在り方を審議。2月9日、9月27日分科会後に GEAHSS の運営委員会開催をサポート。</p> <p>2. 人文社会科学系研究者の男女共同参画実態調査（第1回）の実施に取り組み（GEAHSS との共同事業）、3000名弱の研究者の回答を得た。2月</p>				

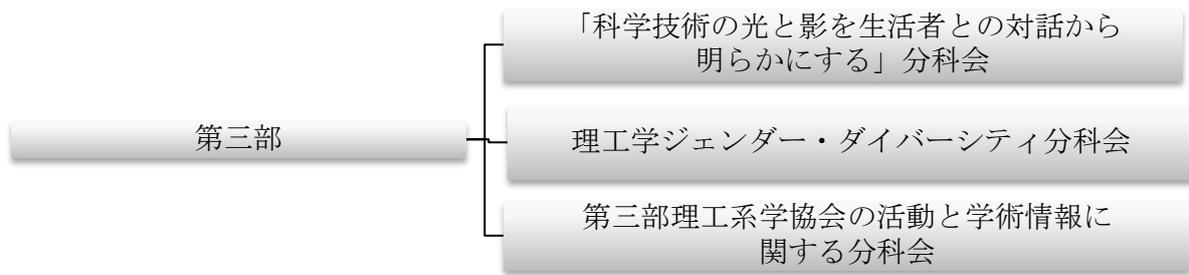
	9日に中間報告をシンポジウムで発表、秋口には報告書を作成予定である。
	意思の表出（※見込み含む）
	予定している
	開催シンポジウム等
	平成31年2月9日公開シンポジウム「なぜできない？ジェンダー平等：人文社会科学系学会男女共同参画の実態と課題」（GEAHSSと共催、於日本学術会議講堂）（140名参加）
開催状況	平成30年9月28日、平成31年2月9日、平成31年3月20日、令和元年5月12日、令和元年9月27日
今後の課題等	アンケートをもとにどう提言につなげるかを検討している。

第二部

生命科学における公的研究資金のあり方検討分科会

第二部生命科学ジェンダー・ダイバーシティー分科会

第二部 生命科学ジェンダー・ダイバーシティー分科会					
委員長	平井みどり	副委員長	小松浩子	幹事	熊谷日登美
主な活動	審議内容				
	生命科学における女性研究者の、大学や学協会における役職就任あるいは受賞者の比率の現状を明らかにし、問題点を洗い出す。特に若手や外国人研究者が活躍できるための方策を考えていきたい。医学部における男女差別の根底には、医療における働き方の問題が存在しており、その点については科学者委員会の男女共同参画分科会とも協力して検討を行っていく。				
	意思の表出（※見込み含む）				
	男女共同参画分科会の活動に対応する形で検討したい。				
	開催シンポジウム等				
	平成 30 年 10 月 26 日「医療界における男女共同参画の推進と課題～日本学術会議幹事会声明をふまえて～」を男女共同参画分科会との共催で開催				
開催状況	平成 30 年 10 月 12 日第 1 回委員会開催 平成 31 年 4 月 26 日第 2 回委員会開催				
今後の課題等	国際的な動向の反映、および他の分科会や学協会との連携をどのように行っていくか。若手の意見を反映する方策をどのように行うか。				



第三部 「科学技術の光と影を生活者との対話から明らかにする」分科会					
委員長	徳田英幸	副委員長	土井美和子	幹事	高橋桂子 米田雅子
主な活動	<p>審議内容</p> <p>* 第三部夏季部会、学術会議関西地区会議、大阪大学との共同開催という形で、公開シンポジウム「A I と人がつくる未来社会」を企画し、令和元年 8 月 1 日に大阪大学豊中キャンパスにて開催した。</p> <p>* 同シンポジウムにおいては、以下の 4 つの招待講演の後、4 名の講演者と八木 康史大阪大学理事・副学長とともに総合討論が行われた。会場には、地元のスーパーサイエンスハイスクールの高校生 170 名を含む計 340 名に参加して頂き、「どのように人間と A I の共存社会を築けば、豊かな未来が切り拓かれるのか」について活発に議論した。</p> <p>(1) 「人と関わるロボットの研究開発」石黒 浩（大阪大学大学院基礎工学研究科教授／大阪大学共生知能システム研究センター長）</p> <p>(2) 「ヒト脳情報研究と人工脳モデル」柳田 敏雄（大阪大学大学院基生命機能研究科特任教授／理化学研究所生命システム研究センター長）</p> <p>(3) 「A I と倫理について」江間 有沙（東京大学政策ビジョン研究センター特任講）(4) 「人と A I を言葉でつなぐ～自然言語処理による言語理解～」荒瀬 由紀（大阪大学大学院情報科学研究科准教授）</p> <p>* 本シンポジウムを受けて、令和 2 年 8 月に開催予定の公開シンポジウムの企画案について議論した。</p> <p>意思の表出（※見込み含む）</p> <p>開催シンポジウム等</p> <p>R1/8/1: 、公開シンポジウム「A I と人がつくる未来社会」を大阪大学豊中キャンパスにて開催。（https://www.osaka-u.ac.jp/ja/news/seminar/2019/08/8372）</p> <p>R2/8: 公開シンポジウムを企画予定</p>				

開催状況	1回開催 (R1/8/1)
今後の課題等	

第三部 理工学ジェンダー・ダイバーシティ分科会					
委員長	加藤 昌子	副委員長	森下 信	幹事	野尻 美保子 浅見 真理
主な活動	審議内容				
	<p>・ 科学者委員会男女共同委員会と連携をとりつつも理工学の立場から、独自の活動を行うという観点で、理工学の各分野の状況を調査した。また、委員間でのメールによる情報共有や意見交換を行いながら、ジェンダー・ダイバーシティに関する国内および世界の取組や調査報告の収集と分析を実施中である。</p>				
	意思の表出 (※見込み含む)				
	理工系に特有の課題を抽出してまとめるとともに、解決に向けた提言の発出を目指す。				
開催状況	開催シンポジウム等				
開催状況	24期 第2回 平成30年10月17日 第3回 令和元年10月頃 (予定)				
今後の課題等					

第三部 理工系学協会の活動と学術情報に関する分科会					
委員長	山口 周	副委員長	菱田 公一	幹事	安達 淳, 田近 英一
主な活動	審議内容				
	<p>本分科会では、第三部に特有の学術活動、特に学会活動と学術情報に関する課題について、過去に日本学術会議が発出してきた関連提言に関する検証・総括を行うとともに、将来の展望と諸問題について審議して提言をまとめることを目的としている。第1回分科会では、分科会役員を選出の後、これまで発出された提言や報告の概要をレビューするとともに、最近関心が集まっているハゲタカジャーナル問題を審議した。第2回分科会では、電子ジャーナル購読問題と学術誌出版問題について専門家を招聘して議論を深めた。分科会は集中審議により効率的に議論を進めている。第3回以降は、①ジャーナル出版、②電子ジャーナル購読、③学協会活動活性化、④理工系分野におけるオープンサイエンス問題の4課題について個別グループによる課題審議</p>				

	<p>の深化を図るとともに、これらの諸問題について学協会の現状と今後の方針に関する状況調査を行う。</p>
	<p>意思の表出（※見込み含む）</p>
	<p>令和2年度に提言を発出する予定</p>
	<p>開催シンポジウム等</p>
	<p>提言を発出と時期を合わせて公開シンポジウムを主催し、科学者コミュニティならびに市民との情報共有を進める予定。</p>
開催状況	<p>第1回：平成31年4月5日(金)，第2回：令和元年7月12日(金) 第3回：令和元年10月下旬(予定)，第4回：令和2年1月下旬(予定)</p>
今後の課題等	<p>本年度4回の分科会開催を予定している。また、来春3月開催予定の理工工学系学協会連絡協議会に本分科会によるアンケート調査結果の提出を目指し、理工工学系学協会向けアンケート調査案を準備中である。</p>

(7) 地区会議

北海道地区会議
東北地区会議
関東地区会議
中部地区会議
近畿地区会議
中国・四国地区会議
九州・沖縄地区会議

北海道地区会議		代表幹事	實金 清博
主な活動	審議内容	<ul style="list-style-type: none"> ・ 2019 年度（令和元年度）事業計画について ・ 日本学術会議 in 北海道について ・ 日本学術会議学術講演会について ・ 日本学術会議サイエンスカフェについて など 	
	開催シンポジウム等	<ul style="list-style-type: none"> ・ 平成 30 年 12 月 2 日：日本学術会議サイエンスカフェ「のぞいてごらんなさい～分子をつかむ光のピンセット～」 ・ 平成 31 年 2 月 16 日：日本学術会議 in 北海道（第一部：学術シンポジウム「多様性・共生の地域社会を目指して」、第二部：科学者との懇談会「日本学術会議及び北海道地区会議の活動について」及び第三部：学術講演会「Society5.0 で北海道が変わる（AI・IoT・RT 技術の地方深化）」を ANA クラウンプラザホテル札幌（札幌市）で開催し、延べ 212 名が参加した。 ・ 平成 31 年 3 月に地区会議ニュース（NO.49）を発行し、日本学術会議 in 北海道開催概要及び地区会議の活動報告等を掲載した。 	
開催状況	運営協議会：平成 30 年 10 月 23 日，平成 30 年 11 月 5 日メール，平成 31 年 2 月 28 日メール，令和元年 6 月 27 日		

今後の課題等	学術講演会及びサイエンスカフェ等において地区会議の活動を一般市民に広報し、日本学術会議の活動についてさらに周知を図っていききたい。
--------	---

東北地区会議		代表幹事	厨川常元
主な活動	審議内容		
	平成30年7月29日に開催された公開シンポジウムにおいて、日本学術会議、被災地の研究者コミュニティ、被災地自治体の有機的な連携の可能性を探った。 平成30年8月2日に開催された公開シンポジウムにおいて、AIとIoTに代表される情報技術による社会の変革の見通しを論じ、未来社会構築における学術の貢献について議論した。 令和元年9月15日に開催された公開学術講演会において、超高齢社会となった日本における望ましい看取りのあり方を、多面的に議論した。		
	開催シンポジウム等		
	<ul style="list-style-type: none"> ・公開シンポジウム「東日本大震災後の10年を見据えて」(平成30年7月29日) ・公開シンポジウム「AIとIoTが拓く未来の暮らし：情報化社会の光と影」(平成30年8月2日) ・東北地区会議ニュース(No.33)の発行(平成31年3月) ・公開学術講演会「超高齢社会における看取りを考える」(令和元年9月15日) 		
開催状況	平成30年7月29日 公開シンポジウム(第一部、東北大と共同主催) 平成30年8月2日 公開シンポジウム(第三部、東北大と共同主催) 平成31年2月27日 東北地区会議運営協議会 令和元年9月15日 科学者との懇談会及び公開学術講演会		
今後の課題等	公開シンポジウム等、地区会議の活動を一般市民にも大規模に広報し、学術会議の活動についてさらに周知するようにしたい。		

近畿地区会議		代表幹事	伊藤公雄
主な活動	審議内容		
	10月の学術講演会の開催の報告、さらに12月に開催された日本学術会議in京都の報告を踏まえ、今後の近畿地区での活動の方向性について協議を行なった。また、次年度の学術講演会の企画について議論を行い、基本的な方向性についての合意をえた。		
	開催シンポジウム等		

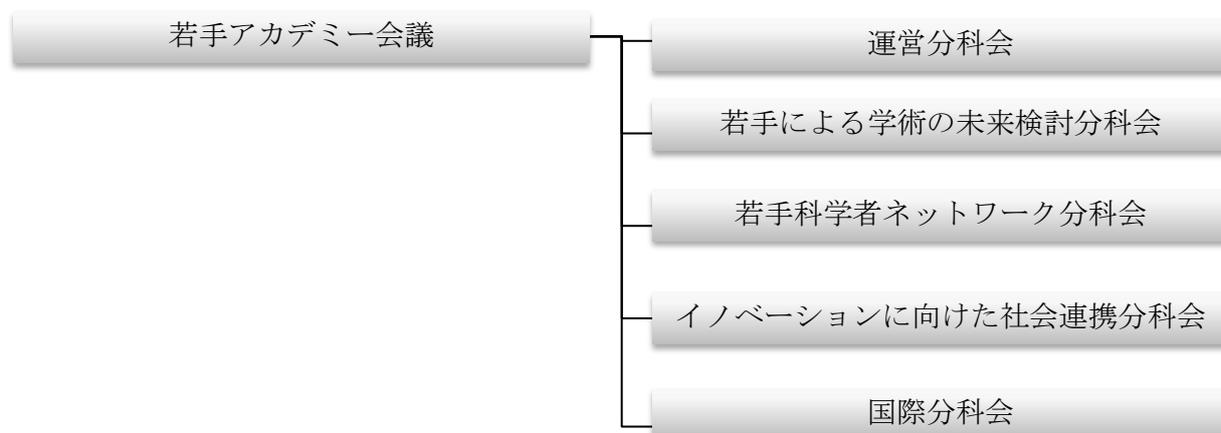
	平成 30 年 1 0 月 2 0 日、京都大学国際科学イノベーション棟にて学術講演会「社会脳から心を探る-自己と他者をつなぐ社会適応の脳内メカニズム」を開催した。また、1 2 月 2 2 日、近畿地区会議を軸に、第 1 回の地方学術会議を、京都府歴彩館・京都府立大学を会場に「日本学術会議 in 京都」として開催した。
開催状況	平成 31 年 2 月 2 7 日、京都産業大学むすびわざ館にて本年度の近畿地区会議運営協議会を開催した。
今後の課題等	令和元年 1 0 月 1 2 日、「未来の語り口：学術からの貢献」と題した学術講演会を開催準備中である。

中国・四国地区会議		代表幹事	神谷研二
主な活動	審議内容		
	<p>○公開学術講演会について</p> <p>公開学術講演会は中国・四国地区会議の主な活動であり、公開学術講演会の開催にあたっては、その趣旨である「学術の成果の国民への還元」に鑑み、参加する国民の関心を集め、かつ地域の特色を活かしたテーマについて運営協議会において審議した。</p>		
	開催シンポジウム等		
	公開学術講演会 「地域の持続性に貢献するオンリーワン研究の展開」 (平成 30 年 11 月 17 日、鳥取市)		
開催状況	運営協議会 (平成 30 年 11 月 17 日、平成 31 年 3 月 18 日)		
今後の課題等	引き続き、地区ニュースや学術の動向「地区会議の動向」において、中国・四国地区会議の活動を発信していきたい。		

九州・沖縄地区会議		代表幹事	君塚 信夫
主な活動	審議内容		
	<p>・平成 30 年 8 月に運営協議会 (書面会議) を開催し、平成 30 年度下半期の科学者懇談会および学術講演会実施概要 (案) について審議した。</p> <p>・平成 31 年 3 月に運営協議会 (書面会議) を開催し、平成 30 年度日本学術会議九州・沖縄地区会議の事業報告 (案)、平成 31 年度の事業計画 (案) ならびに平成 31 年度上半期の科学者懇談会及び学術講演会実施概要 (案) について審議した。</p>		
	開催シンポジウム等		

	<p>・ 科学者懇談会および学術講演会の開催</p> <p>平成 30 年 9 月 10 日（月）に、鹿児島市において「科学者懇談会」および「学術講演会」を開催した。「科学者懇談会」では、前田 鹿児島大学長をはじめとする地元科学者が出席し、意見交換を行った。「学術講演会」においては、「南九州におけるウイルス感染症とその制御に向けた挑戦」をテーマに 4 件の講演を行い、約 100 名の参加者を得て盛況のうちに終了した。</p> <p>平成 31 年 2 月 27 日（水）に、熊本市において「学術講演会」を開催した。「熊本地震の復興に貢献する熊本大学の学術研究」をテーマに 3 件の講演を行い、熊本大学原田学長をはじめ約 100 名の参加者を得、盛会裏に終了した。</p> <p>・ 地区ニュースの発行</p> <p>平成 31 年 3 月に「地区会議ニュース No.117 号」を発行し、平成 30 年度に開催した「科学者懇談会」及び「学術講演会」の概要ならびに地区会議の活動報告等を掲載した。</p>
<p>開催状況</p>	<p>【運営協議会】平成 30 年 8 月、平成 31 年 3 月（いずれも書面会議）</p> <p>【科学者懇談会・学術講演会】平成 30 年 9 月 10 日（鹿児島市）</p> <p>【学術講演会】平成 31 年 2 月 27 日（熊本市）</p>
<p>今後の課題等</p>	<p>【科学者懇談会・学術講演会】令和 2 年 2 月 10 日 宮崎大学との共催で開催予定である。令和 2 年 8 月上旬第 3 部夏季部会、下半期に地方学術会議が九州大学で開催予定である。</p>

(8) 若手アカデミー



若手アカデミー会議					
委員長	岸村 顕広	副委員長	新福 洋子	幹事	岩崎 渉、高瀬 堅吉
主な活動	審議内容				
	<p>第24期も2年目を迎え、各分科会での活発な審議を受け、関係府省庁に聞き取りや意見交換に行く活動を始めたほか、シンポジウムやワークショップの開催を活発に行った。特にシチズンサイエンスの活用・普及に向けたシリーズ企画や、地方活性化事業に関するイベントを青森、福岡にて開催した。また、国際的な会議・イベントに積極的に参加した。特に Global Young Academy (GYA) 年次総会において、新福副代表が執行役員に再度選出された。日本学術会議 in 京都では一つの分科会の企画・運営を担当した。若手アカデミー全体としては4回の全体会議を開催し（平成30年10月29日、平成30年11月22日、平成31年3月4日、令和元年8月23日）、各分科会、委員会での活動内容の共有を行い、今後の活動について活発に審議した。その他、「学術の動向」誌にも積極的に寄稿した（2018年10-12月号、2019年1,3月号）。【国際会議参加】平成30年10月第9回 EU-Japan Science Policy Forum（京都）、STS フォーラム2018 京都）、同年11月政府に対する科学助言に関する国際ネットワーク（INGSA）第3回会合（東京）、同年12月アジア学術会議（東京）、平成31年3月Gサイエンス学術会議（パリ）、同年4月IAP conference（韓国・松島）、GYA年次総会（ドイツ・ハレ）、令和元年7月第4回各国若手アカデミー会議（ベトナム・ダナン）</p>				
	意思の表出（※見込み含む）				
	シチズンサイエンスに関する意思の表出を計画中である。				
開催シンポジウム等					

	<p>【シンポジウム】「博士キャリアの可能性—企業が博士に求めること—」平成30年10月27日（場所：日本学術会議）、「地方における若手科学者を中心とした学術活動の活性化—シチズンサイエンスを通じた地方課題解決への取り組み—（青森県）」平成30年12月1日（場所：弘前大学、青森県弘前市）</p> <p>【ワークショップ】「地方における若手科学者を中心とした学術活動の活性化—地域を豊かにする学術：新国富を中心に学術の街づくりへの貢献を考える—SDGsで地域活性化—」平成31年1月15日（場所：アクロス福岡、福岡県福岡市）、「地方における若手科学者を中心とした学術活動の活性化：シチズンサイエンスを通じた地方課題解決～市民と科学者が“つながる場”について考える～」平成31年3月2日（場所：電気ビル、福岡県福岡市）</p>
開催状況	平成30年10月29日（第4回、メール審議）、平成30年11月22日（第5回、メール審議）、平成31年3月4日（第6回、東京大学）、令和元年8月23日（第7回、日本学術会議・予定）
今後の課題等	<ul style="list-style-type: none"> ・活動状況に合わせたメンバーの補充について。 ・メンバー間交流を活性化し、議論を円滑化するとともに新規活動を起案・提案しやすくする。

若手アカデミー 運営分科会					
委員長	岸村 顕広	副委員長	新福 洋子	幹事	岩崎 渉、高瀬 堅吉
主な活動	若手アカデミーの全体会議の起案、若手アカデミー主催のシンポジウム・ワークショップ等の企画立案。				
開催状況	平成30年12月1日（土）（第3回）、令和元年5月20日（月）（第4回）				
今後の課題等	若手アカデミーの組織のさらなる機能強化を図る。地方活性化企画の準備を早めから継続的に進めていく。				
開催状況	平成30年12月1日（土）（第3回）、令和元年5月20日（月）（第4回）				

若手アカデミー 若手による学術の未来検討分科会					
委員長	川口慎介	副委員長	平田佐智子	幹事	埴淵知哉 中村征樹
主な活動	審議内容				
	<ul style="list-style-type: none"> ・科学者のあり方、特にライフワークバランスの実現について検討。 ・発展する自然理解とその社会との対話について検討。 ・公開シンポジウム「博士キャリアの可能性—企業が博士に求めること—」企画。 				
	意思の表出（※見込み含む）				

	なし
	開催シンポジウム等
	公開シンポジウム「博士キャリアの可能性—企業が博士に求めること—」を平成30年10月27日に日本学術会議講堂にて行った。日本学術会議としては初めてインターネットライブ配信を行い、視聴者は累計70名程度であった。
開催状況	令和元年8月23日
今後の課題等	若手研究者の研究時間不足に関するエビデンス収集とソリューション提案。抽象度の高いテーマについて各分野の視点で若手研究者が紹介・議論する企画。

若手アカデミー イノベーションに向けた社会連携分科会					
委員長	高山弘太郎	副委員長	高瀬堅吉	幹事	上村想太郎, 谷内江 望
主な活動	審議内容				
	若手科学者による社会連携を推進するとともに、社会連携のあり方や科学技術イノベーションの社会実装など、学術と社会の関係について検討を行った。特に、若手科学者の社会連携へのアプローチの仕方を検討し、シチズンサイエンス、SDGs、Society 5.0、PRISMに関連するシンポジウムの企画、提言・報告の準備を進めた。				
	意思の表出（※見込み含む）				
	開催シンポジウム等				
開催状況	令和元年7月16日※メール、令和元年8月23日				
今後の課題等	若手科学者による社会連携を推進するためのシチズンサイエンス、SDGs、Society 5.0、PRISMに関連するシンポ企画、提言・報告の準備を進める必要がある。				

若手アカデミー 国際分科会					
委員長	新福洋子	副委員長	西嶋一欽	幹事	中西和嘉 安田仁奈

主な活動	審議内容
	Global Young Academy の動向・連携、INGSA 東京大会プレワークショップ、アジア学術会議、国際化に伴う大学のインフラ整備、海外におけるデータ取得に関する障壁（CITES 会議）、World Science Forum 2019
	意思の表出（※見込み含む）
	開催シンポジウム等
	平成 30 年 11 月 5 日「若手研究者のための科学的助言能力構築ワークショップ」
開催状況	平成 30 年 11 月 5 日、平成 31 年 3 月 4 日、令和元年 7 月 26 日、8 月 23 日（その他、適宜、メールでの情報共有・意見交換）
今後の課題等	国際イベント開催への対応への人員、費用の課題

3. インパクト・レポート

(1) 臨床医学委員会・健康・生活科学委員会合同生活習慣病対策分科会

(提言)「働く世代の生活習慣病予防—健診・保健指導の今後の展開と若年期からの対策の重要性—」インパクト・レポート

1 提言の内容

健康寿命の延伸に資する施策の推進に関し、以下の4点を関係省庁等に提言し、これまでの生活習慣病対策の真摯な検証と新たな取り組みを求めた。

- (1) メタボリックシンドローム対策と非肥満ハイリスク者対策の並行実施 (厚労省)
- (2) 小児期・青年期からの生活習慣病予防対策 (文科省、厚労省)
- (3) 生活習慣病対策の世界モデル (厚労省、世界保健機構)
- (4) 胎生期・幼小児期を含めた生活習慣病研究の基盤維持と継続支援 (文科省、厚労省)

2 提言の年月日

平成29年9月28日

3 社会的インパクト

(1) 政策

- ・ 平成30年2月16日に厚生労働省から公表された「標準的な健診・保健指導プログラム【平成30年度版】」に非肥満ハイリスク者対策並行実施の重要性が明記された。
- ・ 国立研究開発法人日本医療研究開発機構 (AMED) 「健康・医療戦略の推進に必要な研究開発」において、「低・中所得国における慢性疾患の発症予防と重症化予防の実装 (Implementation) のための調査研究」が平成30年4月に公募された。

(2) 学協会・研究教育機関・市民社会等の反応

- ・ 平成29年11月2日に鹿児島県かごしま県民交流センターで開催した市民公開シンポジウム『幼小児期から思春期・若年成人期における生活習慣の見直しと健康増進』では、180名の参加者がシンポジストとともに提言内容について熱心に議論した。
- ・ 平成30年8月23日に東北大学川内北キャンパスで開催された健康・生活科学委員会主催の市民公開シンポジウム『これからのいのちと健康と生活をまもる 食・生活から健康を考える』において、生活習慣病対策分科会の藤原葉子委員が招聘され「食・生活からみた健康にかかわる課題」として提言内容について紹介した。

4 メディア

特になし

5 考察と自己点検

提言内容(1)、(3)については上述の通り、政策に反映されたと捉えることができるが、継

続的な検証が必要と考える。(2)、(4)については、第24期の課題に引き継がれ、小・中・高等学校における家庭科や保健体育での健康教育のより一層の充実、大学や職場等における健康教育の格段の強化に向けての提言作成に取り組むこととなった。

インパクト・レポート作成責任者
臨床医学委員会・健康・生活科学委員会合同生活習慣病対策分科会委員長
八谷 寛

(2) 言語文学委員会文化の邂逅と言語分科会

(提言)「ことばに対する能動的態度を育てる取り組みー初等中等教育における 英語教育の発展のためにー」インパクト・レポート

1 提言内容

- ・ 初等中等教育での英語教育が非母語教育である点を十分認識し、実現不可能な過大な目標に代えて、現実的な教育方針を設定すべきである。
- ・ 英語による英語授業は、ことばへの能動的態度を育てる可能性を閉ざさぬよう、日本語による授業との適正なバランスの中で行うべきである。
- ・ 時間や記憶の制約なしにことばの自由な吟味を可能にする文字は、ことばについて考えさせるために不可欠である。かつての読解重視の教育に戻るのではなく、書きことばの新たな活用を考えるべきである。

2 提言の年月日

平成28年11月4日

3 社会的インパクト

(1) 政策

現時点で特に影響は見られない。

(2) 学協会・研究教育機関・市民社会等の反応

提言公表後、平成29年2月5日に開催したシンポジウムは、申し込み開始後1週間で定員の200名に達し、市民の強い関心が確認された。

4 メディア

- ・ 東京新聞（平成29年2月15日朝刊）記事

5 考察と自己点検

- ・ 査読等学術会議内部での手続きに不慣れであったため、公表に時間を要し、新学習

指導要領原案の完成後の公表となったことから、要領自体には大きな影響を与えることができなかった。しかし、市民社会の関心を喚起することには貢献することはできたと考える。

インパクト・レポート作成責任者
言語文学委員会文化の邂逅と言語分科会委員長
林 徹

(3) 社会統計調査アーカイブ分科会
(提言)「社会調査をめぐる環境変化と問題解決に向けて」
インパクト・レポート

1 提言内容

- (1) 社会調査の質の保証
- (2) 住民基本台帳・選挙人名簿の閲覧
- (3) 公的機関の行う社会調査の質の保証
- (4) 国民の社会調査に対する理解と認識の向上
- (5) 統計法の見直し

2 提言の年月日

平成29年9月19日

3 社会的インパクト

- (1) 政策
特にない。
- (2) 学協会・研究教育機関・市民社会等の反応
 - ①環境科学会 2017 年年研究発表会で提言について言及された。
 - ②「社会調査を管理・運営できる人材を養成する」とことと「国民の社会調査に対する理解と認識の向上」を目指して、概論の授業の一部に「統計を読み解く」というトピックを含んだ大学がある。

4 メディア

特にない。

5 考察と自己点検

個々の研究者からは高い評価をいただいたが、学協会等で組織的な動きを作り出すこと

はできなかった。学協会等と協力して提言に関連したシンポジウム等を開催すべきだったと思う。

インパクト・レポート作成責任者
社会統計調査アーカイブ分科会委員長
佐藤 嘉倫

(4) 第一部 人文・社会科学の役割とその振興に関する分科会
(提言)「学術の総合的發展をめざして—人文・社会科学からの提言—」
インパクト・レポート

1 提言等内容

- ・人文・社会科学が日本及び世界における持続可能な発展にいかに関与すべきかについて、問題点を分析し、具体的な課題を検討した。
- ・特に強調したのは、(1) 教育の質を変え、若者の未来を拓く、(2) 研究の評価指標を再構築する、(3) 大学予算と研究資金のあり方を見直す、(4) 地方創生に貢献する、(5) 女性と若者が活躍する社会を創る、(6) 総合的学術政策の構築を図る の諸課題である。

2 提言等の発出年月日

平成29年6月1日

3 フォローアップ（提言を浸透させるための提言者側のシンポジウムや出版等の活動）
第24期第一部の活動

- ・第一部附置「人文・社会科学の役割とその振興に関する分科会」において、地方大学の役割という観点からの大学改革の再検討、人文・社会科学における研究評価について議論を行っている。
- ・上記(5)で提示した「学術白書」に準じる「人文・社会科学ファクトブック」の作成を検討するために、「人文・社会科学基礎データ分科会」を新たに設置した。
- ・第一部附置「総合ジェンダー分科会」は、「人文社会科学系学協会における男女共同参画推進連絡会(GEAHSS)」と共同し、公開シンポジウムを開催し、「人文社会科学系研究者の男女共同参画実態調査」を実施した。

主な公開シンポジウム

「教育と学術の明日を考える」（平成29年7月30日 島根大学）

「人文社会科学分野の男女共同参画を目指して」（平成29年12月16日 奈良女子大

学)

「人文社会系学協会における男女共同参画をめざして」(平成30年3月31日 お茶の水女子大学)

「東日本大震災後の10年を見据えて」(平成30年7月29日 東北大学)

「地域と世界に生きる大学—地域社会における知の創造と発展のために—」(平成31年2月3日)

「なぜできない? ジェンダー平等人文社会科学系学会 男女共同参画の実態と課題」(平成31年2月9日)

「研究評価の客観化と多様化をめざして—分野別研究評価の現状と課題」(令和元年5月24日)

京都大学学術研究支援室『第4回人文・社会科学系研究推進フォーラム報告書 人文・社会科学系研究の未来像を描く—研究の発展につながる評価とは—』2018年9月1日発行

総合科学技術・イノベーション会議の有識者会合(2018年12月13日)において、「基礎研究力強化」の討議資料として本提言を提出し、人文・社会科学振興の重要性を訴えるとともに、本提言の浸透を図った。

4 社会に対するインパクト

(1) 政策への反映

有

提言の報告を受けて、文部科学省科学技術・学術審議会第9期学術分科会は、人文学・社会科学に関する若手育成や国際性、研究環境などに関する議論を開始し、その成果を取りまとめた科学技術・学術審議会学術分科会および人文学・社会科学振興の在り方に関するワーキンググループ『人文学・社会科学が先導する未来社会の共創に向けて(審議のまとめ)』(2018年12月14日)において本提言が引用された。2019年度の第10期より、「人文学・社会科学特別委員会」が設置され、さらに議論を深めることになっており、本提言の内容のさらなる反映が期待される。

科学技術振興機構研究開発戦略センター「戦略プロポーザル 自然科学と人文・社会科学との連携を具体化するために—連携方策と先行事例—」(平成30年10月)に、「2 日本学術会議による人文・社会科学に関する提言」として紹介された。

(2) 学協会・研究教育機関・市民社会等の反応

(a) 学協会

以下を例とする、複数の人文・社会科学系の学会において、本提言に触発された活動があった。

・日本宗教学会年次大会において、本提言の執筆者の一人である井野瀬久美恵（24期）連携会員がコメンテータとして招かれ、特別パネル「宗教研究の振興と学会・学会連合の役割——学術会議との対話」が開催された。（平成28年9月9日）

(b) 研究教育機関

・一橋大学において、関連テーマに関するシンポジウム「平成30年度第6回一橋大学政策フォーラム「人文学・社会科学の社会的インパクトとは何か？」」が開催された。（平成31年2月3日）

5 メディア

- ・日刊工業新聞 記事（2017年6月2日）
- ・時事通信社『内外教育』（第6729号、2019年2月19日）シンポジウム「地域と世界に生きる大学」について

6 考察と自己点検（a-c から一つ選択し、説明する）

- (a) 予想以上のインパクトがあった
- (b) ほぼ予想通りのインパクトが得られた
- (c) 期待したインパクトは得られなかった

一定のインパクトは得られたが、本提言は、政策提言の面と、人文・社会科学系研究者の自省と課題への取り組みを求める面をともに含むため、本提言の浸透に向けては、より一層の努力と協働が必要であるという理解が第一部において共有されている。

インパクト・レポート作成責任者
第一部 人文・社会科学の役割とその振興に関する分科会委員長
佐藤 学

(5) 社会学委員会社会福祉学部分科会

(提言) 「社会的つながりが弱い人への支援のあり方について—社会福祉学の視点から—」インパクト・レポート

1 提言等内容

(1) 包括的な相談支援体制を構築するために

- ・ コミュニティソーシャルワーカーを日常生活圏域ごとに1万人配置すること。
- ・ 縦割りで予算化されている事業予算を市町村が柔軟に再編成できるようにして、社会的つながりが弱い人の新たなニーズに対応できるようにすること。
- ・ 各行政機関や公共サービス事業者が有する生活困難リスクに関する情報を市町村において集約化してリスクマネジメントできる体制を構築すること。
- ・ 既存の市町村社会福祉行政や保健所等の一部の機能を再編成し、専門的緊急支援が可能な体制（「福祉署」（仮称））を創設すること。

(2) 社会的つながりを再構築するために

- ・ 市町村において、分野横断的な地域福祉計画の策定を義務化すること。
- ・ 適切な受援力を高めるための学校教育プログラムの開発等を行うこと。
- ・ 差別を受けやすい人の社会参加を促進するために「合理的配慮」の対象を障害者に限らず拡大すること。
- ・ 属性ごとの社会福祉法体系からニーズベースの社会福祉法体系へ転換すること。

2 提言等の年月日

平成30年9月13日

3 フォローアップ（提言を浸透させるための提言者側のシンポジウムや出版等の活動）

- ・ 本分科会主催の公開シンポジウムを日本学術会議講堂で開催（平成31年1月14日）「社会的つながりが弱い人への支援のあり方について」

4 社会に対するインパクト

(1) 政策への反映

現段階では政策への反映には至っていない

(2) 学協会・研究教育機関・市民社会等の反応

(a) 学協会

- ・ 日本社会福祉系学会連合ニュース（2019.3）で公開シンポジウムの報告を掲載

5 メディア

- ・福祉新聞（平成30年9月25日）
- ・毎日新聞（平成30年9月26日） 暮らしの明日
- ・福祉新聞（平成31年1月21日）
- ・岩手日報（平成31年1月23日） 論説記事

6 考察と自己点検（a-c から一つ選択し、説明する）

(b) ほぼ予想通りのインパクトが得られた

本提言は社会福祉の関係行政機関への政策提言であるとともに、社会福祉関係者に今後の社会福祉の方向性について理解を求めることを目的としており、本提言に関する公開シンポジウムは、日本社会福祉系学会連合と共催し、社会福祉法人全国社会福祉協議会、公益社団法人日本社会福祉士会、公益社団法人日本精神保健福祉士協会、公益社団法人医療社会福祉協会、一般社団法人日本ソーシャルワーク教育学校連盟など、社会福祉系の主要団体の後援を得て開催した。また登壇者として、国際ソーシャルワーク学校連盟イギリス代表理事のジャネット・ウォーカー氏や、厚生労働前副大臣の高木美智代衆議院議員等を招聘し、多くの参加者を集めた。

また現段階では政策への反映には至っていないが、愛知県知事が関心を示すなど、今後の政策の反映に期待できる。

インパクト・レポート作成責任者
社会学委員会社会福祉学部分科会委員長
岩崎 晋也